

グローバル人材育成と 留学の長期的なインパクトに関する調査 報告書

2016年3月



今や全世界の留学生数は450万人に達し、高等教育の質保証をめぐる議論を背景に、グローバル社会で活躍しうる人材が求められおり、高等教育機関は学生の海外学習を促進し、多様かつ効果的な国際教育プログラムの開発が求められています。教育の質保証と学びの実質化をグローバル人材育成にどう結実させるかは、高等教育における喫緊の課題であると言えます。

このような世界的な動向に鑑み、日本におけるグローバル人材育成の課題と方向性を鮮明にするために海外留学をされた方々の大規模な回顧的追跡調査を行い、留学経験がその後のキャリア形成や人生にどのようなインパクトを及ぼしているかを明らかにしました。

2013～2015年度 科学研究費 補助金（基盤研究(A) 課題番号 25245078）
グローバル人材育成と留学の長期的インパクトに関する国際比較研究
研究代表者： 明治大学国際日本学部長 教授 横田雅弘

グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査 調査の概要

海外留学経験者に対して、留学中の経験や留学によって向上した能力、留学終了後の就職やキャリアへの影響、価値観・行動の変化、人生の満足度などについて調査を行いました。また、比較対象として、留学非経験者に対して、国内の大学・大学院での経験や向上した能力、卒業（修了）後のキャリアについても調査を行いました。

日本人の海外留学人数が減少している現状において、留学の意義と成果およびそれらの与える中期的な効果と影響を明らかにできたことは、グローバル人材の育成という喫緊の課題に取り組む大学や企業に対して、たいへん有益な示唆を提供できたと考えております。

■ 調査期間・対象者数

留学経験者調査

【期間】 2015年1～5月

【対象者数】 4,489件

留学非経験者調査

【期間】 2015年8～9月

【対象者数】 1,298件

■ 調査方法

インターネット調査

（調査関係者から声掛けのほか、調査会社のモニターにも協力をいただきました）

■ 対象者条件

留学経験者

- ・少なくとも小・中学校は主に日本で過ごし、日本の高校卒業後に3か月以上の海外留学を経験した人（ただし、日本の高校卒業後も留学を経験していれば、高校在学中に海外留学を経験していてもよい）
- ・留学先の対象は、海外の高等学校、大学、大学院、職業・専門学校、語学学校
インターナショナルスクール・国際バカロレア、民間のダンススクールやプロスポーツの育成チーム（専修学校等に属さないもの）、民間のビジネス研修機関は対象には含まない
- ・海外留学の目的が語学習得や学位取得などであり、単なるボランティアやワーキングホリデーは含まない

留学非経験者

- ・国内の大学卒、もしくは大学院卒（修士・博士）
- ・日本に存在する企業に勤めている（日本に存在する外資系企業は可）、もしくは主婦・無職
- ・3か月以上の海外留学や海外在住経験がない、帰国子女ではない（3か月以内の海外旅行等は可）
- ・大学・大学院入学前の経験が以下の人
外国語運用能力をみにつけていなかった、家庭内で外国語を使用していなかった
国内のインターナショナルスクールに通ったことがない

【留学生の分類に関する説明】

複数の留学を経験した場合は、「最も重要な留学であったと回答した留学先」について分類している。学部課程留学には、学位取得を目指した留学のほかに、単位取得留学、休学留学等を含む。修士課程留学や博士課程留学も同様である。

属性情報

留学経験者 4,489人

※経験した留学の中でも最も重要な留学であったと回答した留学先の学校種別で分類

留学非経験者 1,298人

※最終学歴で分類

	50歳代以上			40歳代			30歳代			20歳代以下			合計
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	
高校	4	10	14	8	13	21	24	34	58	15	35	50	143
	2.8%	7.0%	9.8%	5.6%	9.1%	14.7%	16.8%	23.8%	40.6%	10.5%	24.5%	35.0%	
大学	232	84	316	345	281	626	265	347	612	131	185	316	1,870
	12.4%	4.5%	16.9%	18.4%	15.0%	33.5%	14.2%	18.6%	32.7%	7.0%	9.9%	16.9%	
大学院 (修士)	160	26	186	127	63	190	75	75	150	26	16	42	568
	28.2%	4.6%	32.7%	22.4%	11.1%	33.5%	13.2%	13.2%	26.4%	4.6%	2.8%	7.4%	
大学院 (博士)	69	10	79	48	18	66	33	17	50	4	3	7	202
	34.2%	5.0%	39.1%	23.8%	8.9%	32.7%	16.3%	8.4%	24.8%	2.0%	1.5%	3.5%	
語学学校	119	127	246	211	353	564	130	320	450	49	82	131	1,391
	8.6%	9.1%	17.7%	15.2%	25.4%	40.5%	9.3%	23.0%	32.4%	3.5%	5.9%	9.4%	
その他	45	21	66	40	75	115	35	60	95	10	29	39	315
	14.3%	6.7%	21.0%	12.7%	23.8%	36.5%	11.1%	19.0%	30.2%	3.2%	9.2%	12.4%	
合計	629	278	907	779	803	1,582	562	853	1,415	235	350	585	4,489
	14.0%	6.2%	20.2%	17.4%	17.9%	35.2%	12.5%	19.0%	31.5%	5.2%	7.8%	13.0%	
大学	100	44	144	114	130	244	100	127	227	20	75	95	710
	14.1%	6.2%	20.3%	16.1%	18.3%	34.4%	14.1%	17.9%	32.0%	2.8%	10.6%	13.4%	
大学院 (修士)	44	8	52	101	48	149	68	109	177	18	65	83	461
	9.5%	1.7%	11.3%	21.9%	10.4%	32.3%	14.8%	23.6%	38.4%	3.9%	14.1%	18.0%	
大学院 (博士)	24	1	25	39	19	58	16	17	33	3	8	11	127
	1.8%	0.1%	1.9%	3.0%	1.5%	4.5%	1.2%	1.3%	2.5%	0.2%	0.6%	0.8%	
合計	168	53	221	254	197	451	184	253	437	41	148	189	1,298
	12.9%	4.1%	17.0%	19.6%	15.2%	34.7%	14.2%	19.5%	33.7%	3.2%	11.4%	14.6%	

留学経験者 4,489人

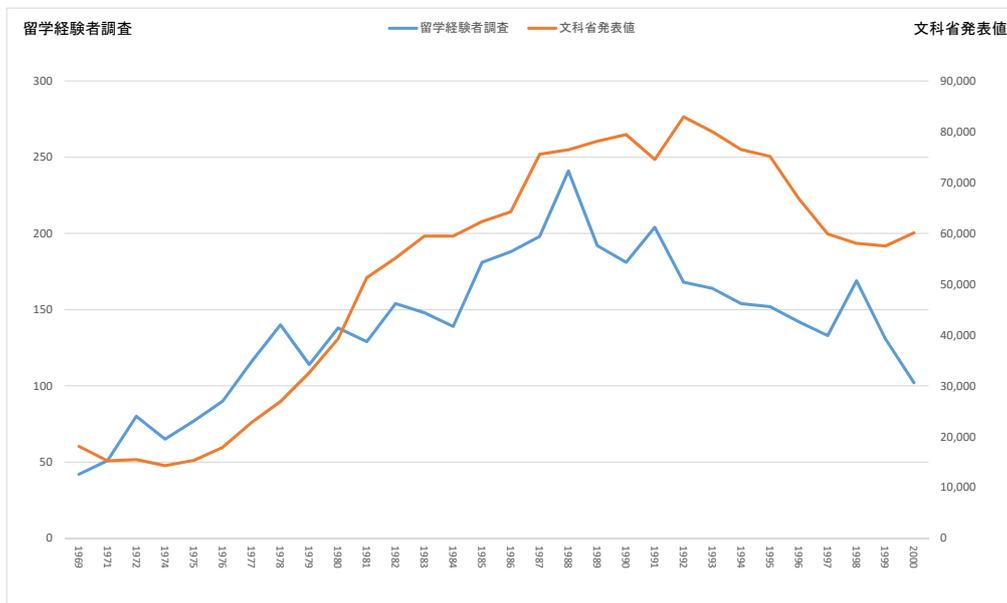
※経験した留学の中でも最も重要な留学であったと回答した留学先の学校種別で分類

	留学先国								合計	留学形態			合計
	アメリカ	中国・韓国・台湾	イギリスなどEU英語圏	オセアニア	ドイツ・フランスなどEU非英語圏	カナダなど北中米英語圏(米以外)	その他英語圏	その他		学位取得/卒業	単位取得(交換留学等)	その他	
高校	91	2	8	24	5	9	0	4	143	43	82	18	143
	63.6%	1.4%	5.6%	16.8%	3.5%	6.3%	0.0%	2.8%		30.1%	57.3%	12.6%	
大学	1,082	226	153	102	158	85	11	53	1,870	747	741	382	1,870
	57.9%	12.1%	8.2%	5.5%	8.4%	4.5%	0.6%	2.8%		39.9%	39.6%	20.4%	
大学院 (修士)	339	16	101	20	56	14	8	14	568	471	62	35	568
	59.7%	2.8%	17.8%	3.5%	9.9%	2.5%	1.4%	2.5%		82.9%	10.9%	6.2%	
大学院 (博士)	118	8	27	13	30	5	0	1	202	130	17	55	202
	58.4%	4.0%	13.4%	6.4%	14.9%	2.5%	0.0%	0.5%		64.4%	8.4%	27.2%	
語学学校	349	148	288	234	152	145	33	42	1,391	125	102	1,164	1,391
	25.1%	10.6%	20.7%	16.8%	10.9%	10.4%	2.4%	3.0%		9.0%	7.3%	83.7%	
その他	100	9	42	47	58	39	8	12	315	92	12	211	315
	31.7%	2.9%	13.3%	14.9%	18.4%	12.4%	2.5%	3.8%		29.2%	3.8%	67.0%	
合計	2,079	409	619	440	459	297	60	126	4,489	1,608	1,016	1,865	4,489
	46.3%	9.1%	13.8%	9.8%	10.2%	6.6%	1.3%	2.8%		35.8%	22.6%	41.5%	

	留学の在籍期間								合計
	3か月以上~6か月未満	6か月以上~1年未満	1年以上~2年未満	2年以上~3年未満	3年以上~4年未満	4年以上~5年未満	5年以上~6年未満	6年以上	
高校	23	66	29	9	12	1	0	3	143
	16.1%	46.2%	20.3%	6.3%	8.4%	0.7%	0%	2.1%	
大学	284	609	346	196	186	153	51	45	1,870
	15.2%	32.6%	18.5%	10.5%	9.9%	8.2%	2.7%	2.4%	
大学院 (修士)	26	72	267	154	24	10	5	10	568
	4.6%	12.7%	47.0%	27.1%	4.2%	1.8%	0.9%	1.8%	
大学院 (博士)	11	24	37	27	34	25	18	26	202
	5.4%	11.9%	18.3%	13.4%	16.8%	12.4%	8.9%	12.9%	
語学学校	408	582	297	55	22	8	11	8	1,391
	29.3%	41.8%	21.4%	4.0%	1.6%	0.6%	0.8%	0.6%	
その他	74	82	89	34	15	7	4	10	315
	23.5%	26%	28.3%	10.8%	4.8%	2.2%	1.3%	3.2%	
合計	826	1,435	1,065	475	293	204	89	102	4,489
	18.4%	32.0%	23.7%	10.6%	6.5%	4.5%	2.0%	2.3%	

【留学生送り出しの人数の比較】 留学経験者調査(4,489人)と文科省発表値

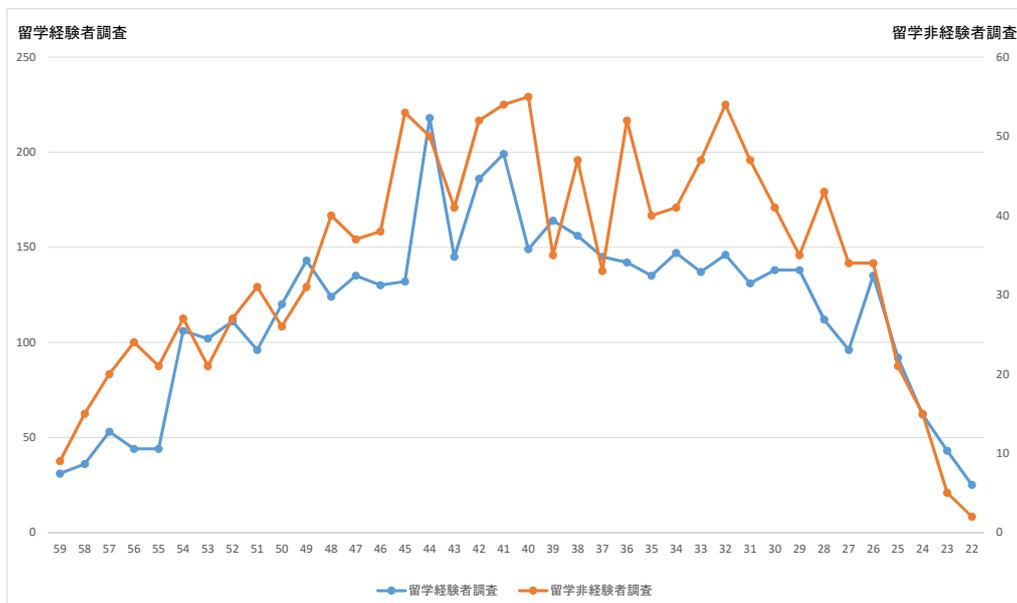
留学経験者調査で直近の数値が文科省発表値よりも小さいのは、留学後のインパクトをテーマとした調査であることが影響していると考えられる(直近に留学した人はその後の日本での経験値が少なく、本調査の設問には答えにくい)。



※留学経験者調査は留学開始年で集計、文科省発表値はその年の留学生数で集計。

【回答者の年齢構成の比較】 留学経験者調査(4,489人)と留学非経験者調査(1,298人)

2つの調査の年齢構成で見ても分布は類似しており、大きな相違はない。



1. 授業や課外活動に対する積極性

留学により異文化や新しい環境で努力することが成長実感につながる

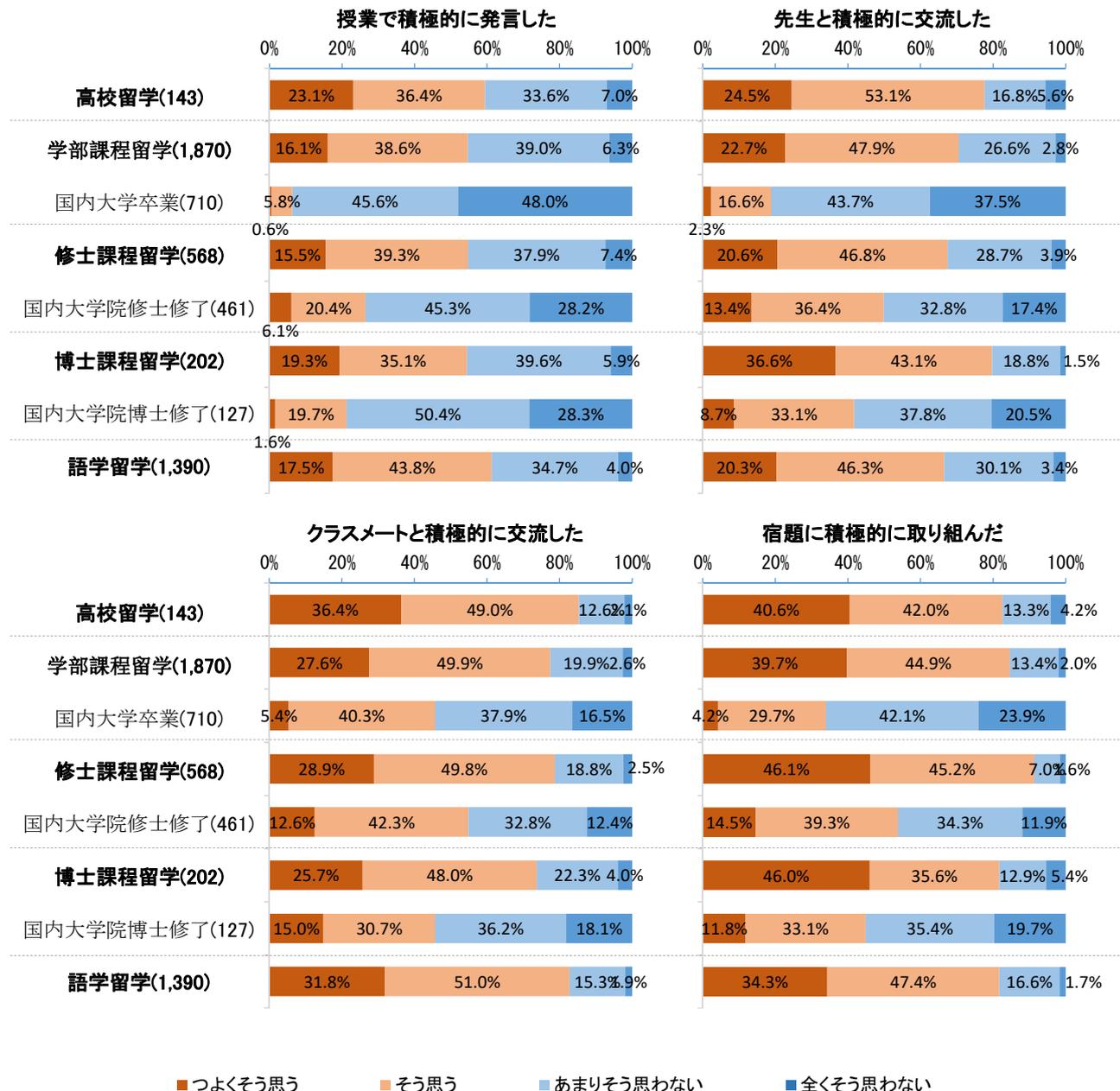
留学経験者であれば留学中、留学非経験者であれば日本の大学に通っている間の、授業や課外活動への積極性は顕著な差が存在する。海外の大学では、慣れない外国語運用に加え、授業や宿題に対する前向きな姿勢が求められる。そのような環境の中で努力し続けることが、能力の向上や価値観の形成(「2. 留学による能力の向上」「6. 留学による意識の形成」参照)につながっている。日本の大学・大学院に通った留学非経験者について授業に対して全体的に消極的な姿勢がみられ、留学経験者とは対照的な姿が浮き彫りになっている。



海外留学中【大学・大学院】の授業および授業以外に関する活動についてお伺いします。以下のそれぞれの項目について、お答えください。

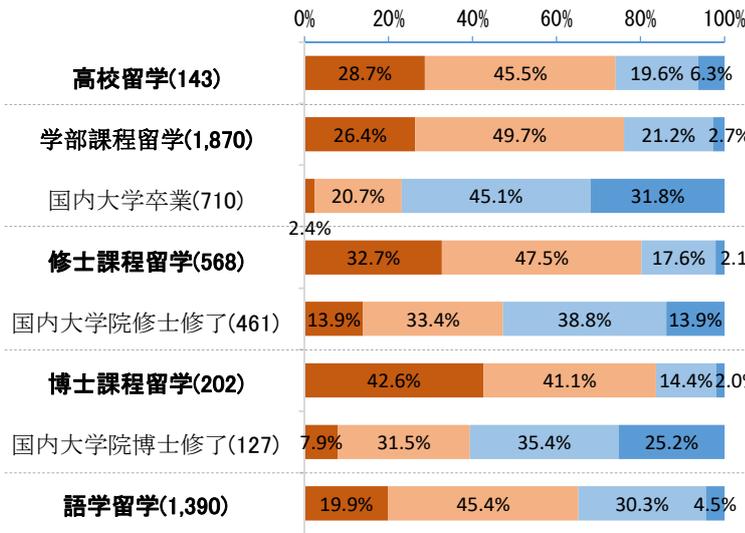
※【 】内は留学非経験者向けの質問

学校種別集計

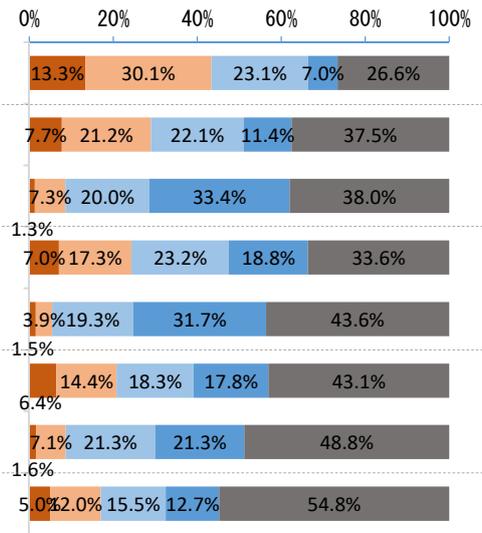


学校種別集計

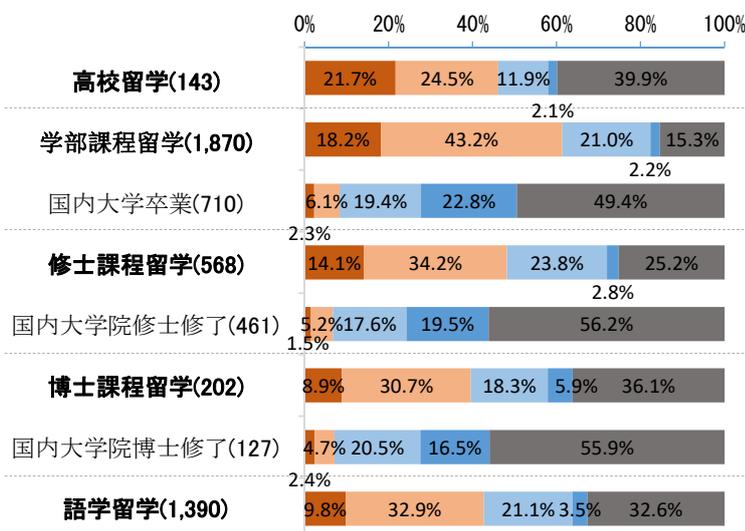
授業内のプレゼンテーションに積極的に取り組んだ



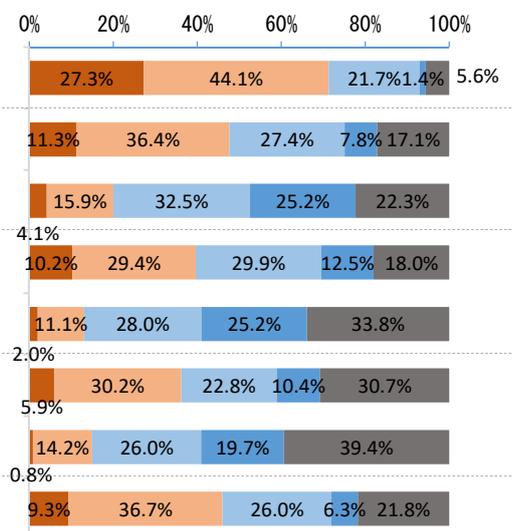
ボランティア活動に積極的に参加した



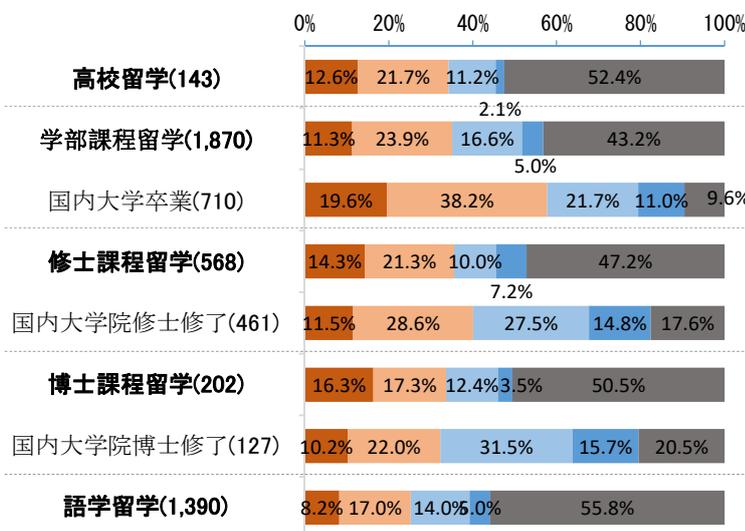
学生宿舎や寮で積極的に交流した



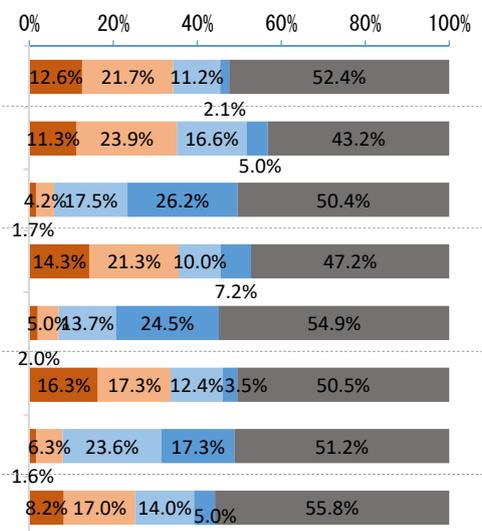
クラブ活動に積極的に参加した



アルバイトで積極的に活動した



インターンシップで積極的に活動した



■ つよくそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 当てはまらない

※授業以外に関する活動の下段2つのグラフについて、留学経験者調査では、「アルバイト/インターンシップ/アシスタントシップで積極的に活動した」という選択肢でまとめて1項目で聞いているため、2つのグラフの留学経験者調査の割合は同一となっている。

2. 留学による能力の向上

語学力や専門性だけではなく、社会人の基礎力向上にも貢献

語学力の向上・専門知識・海外知識の獲得はもちろんのこと、社会に出てから特に重要となる「ストレス耐性」や「柔軟性」「リーダーシップ」等の獲得にもつながっている。日本社会で重視されがちな「協調性」も留学非経験者よりも留学経験者のほうが向上の度合いは大きい。

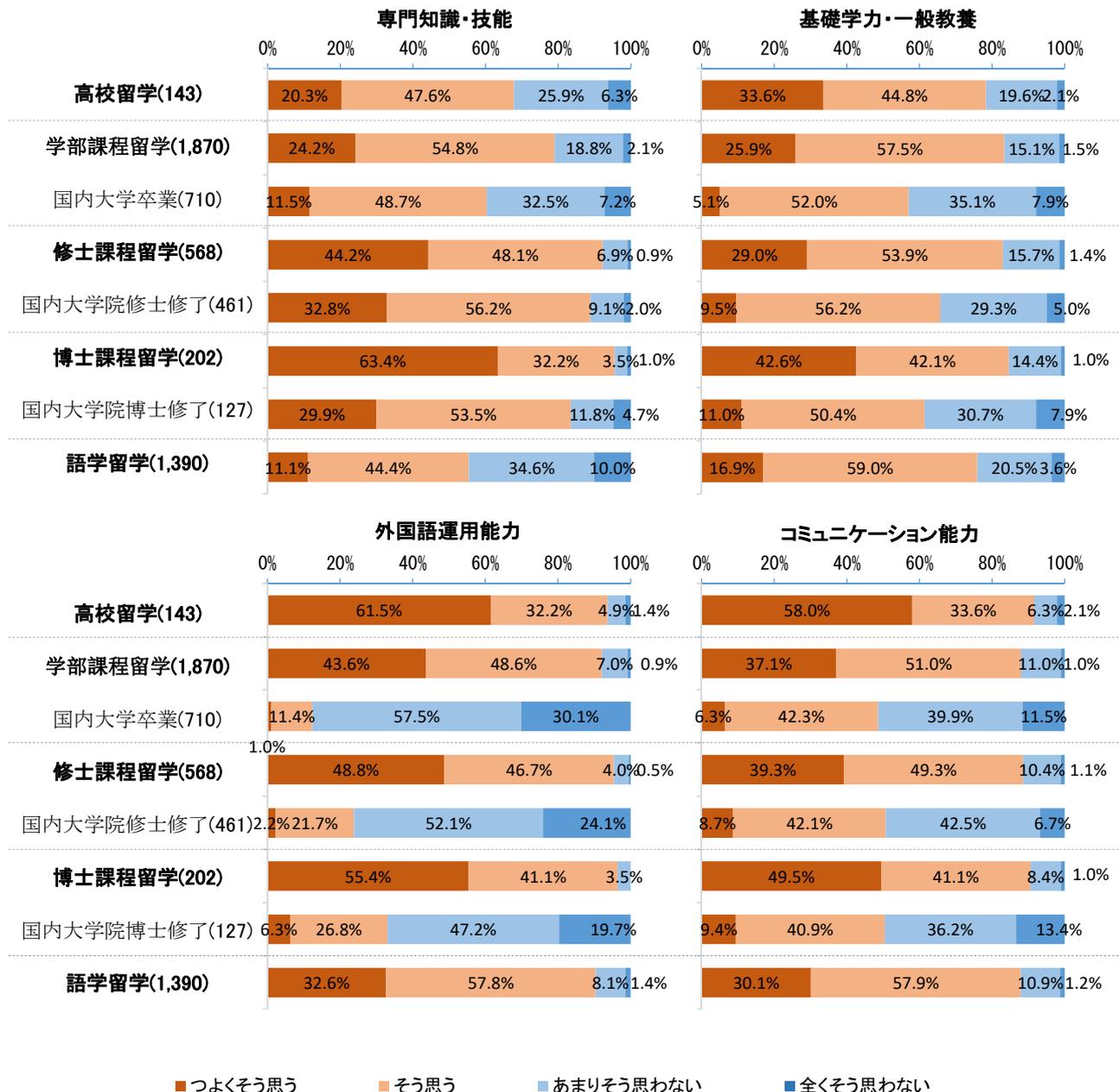
多くの能力について、高校留学を経験した人の能力の向上度合いは大きい。また、学部課程留学・修士課程留学・博士課程留学と段階をあげるにつれて、能力の獲得レベルも向上している。

Q

留学の結果【大学・大学院の学生生活で】、次のような能力が向上したと思いますか。

※【 】内は留学非経験者向けの質問

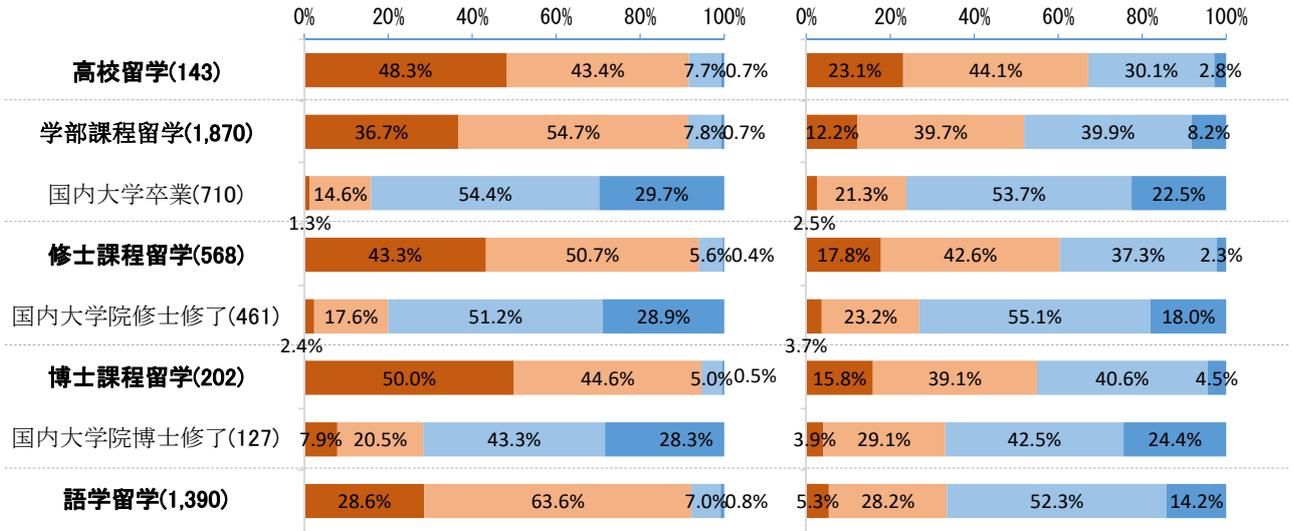
学校種別集計



学校種別集計

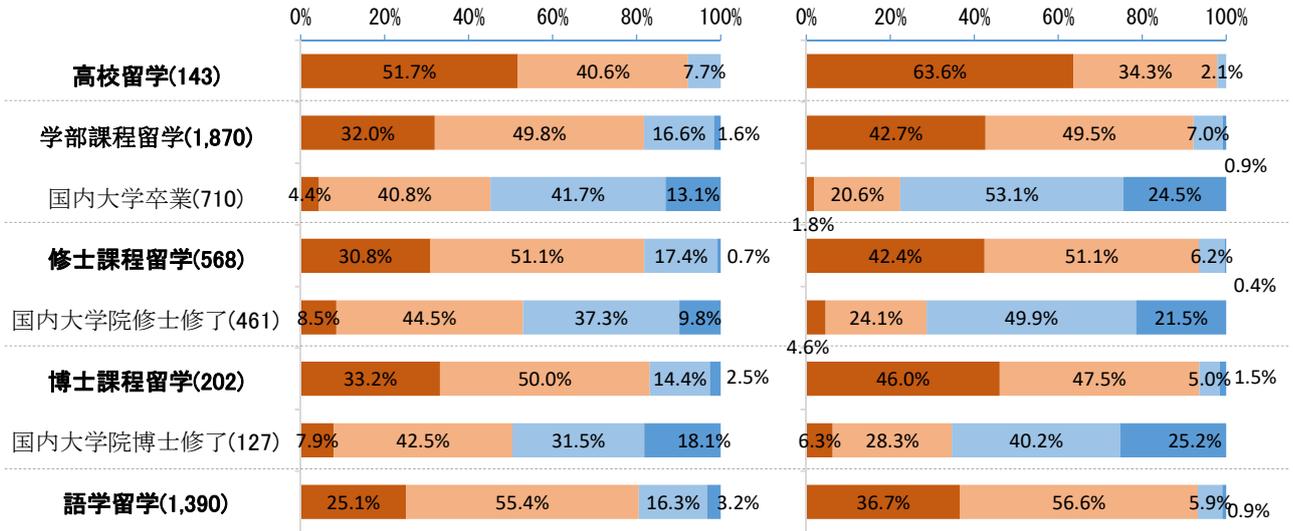
留学先【海外】の社会・習慣・文化に関する知識

リーダーシップ



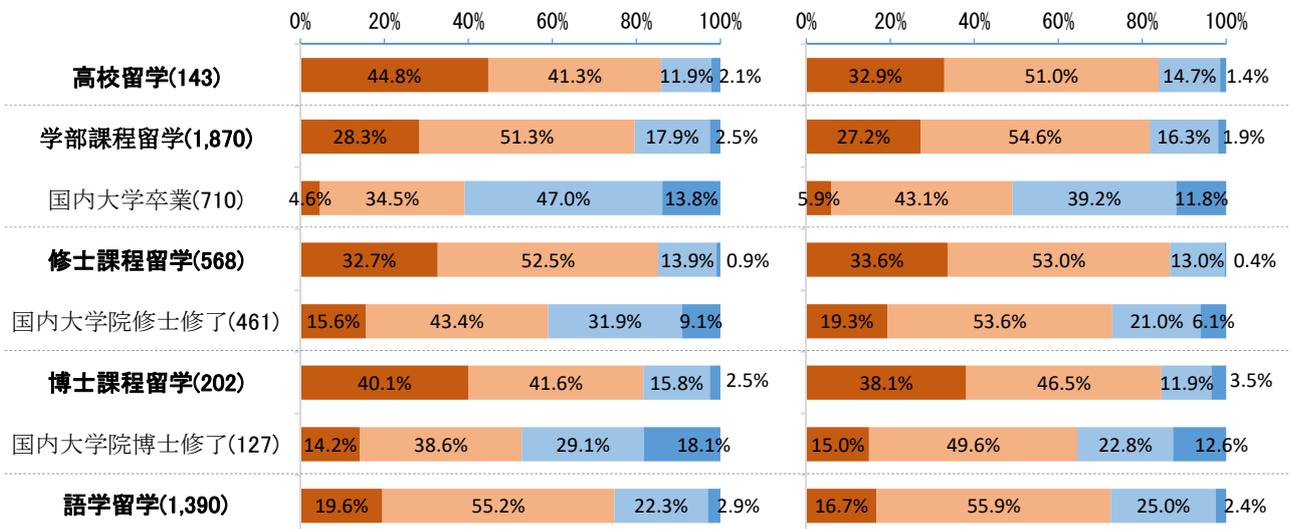
積極性・行動力

異文化に対応する力



ストレス耐性

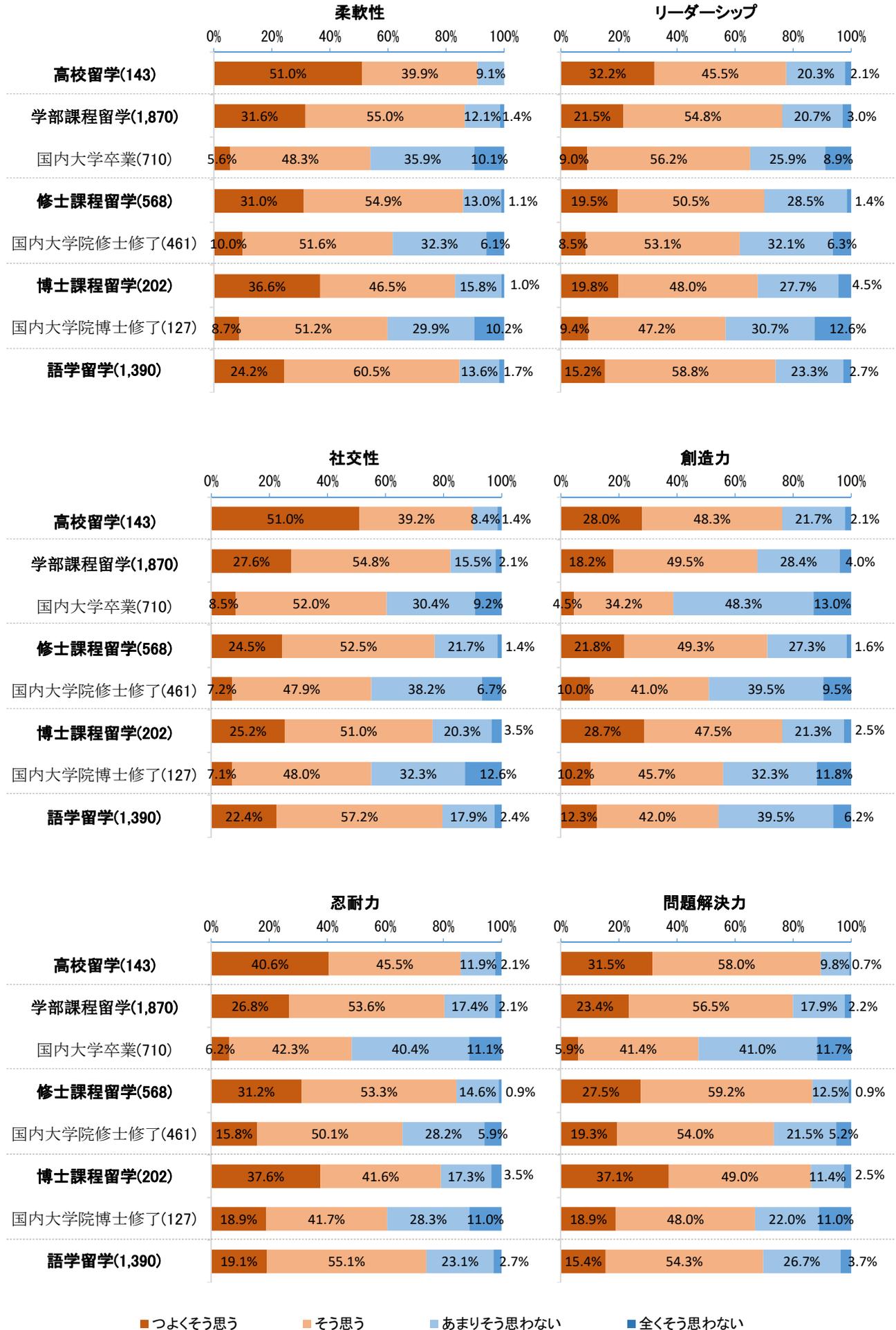
目的を達成する力



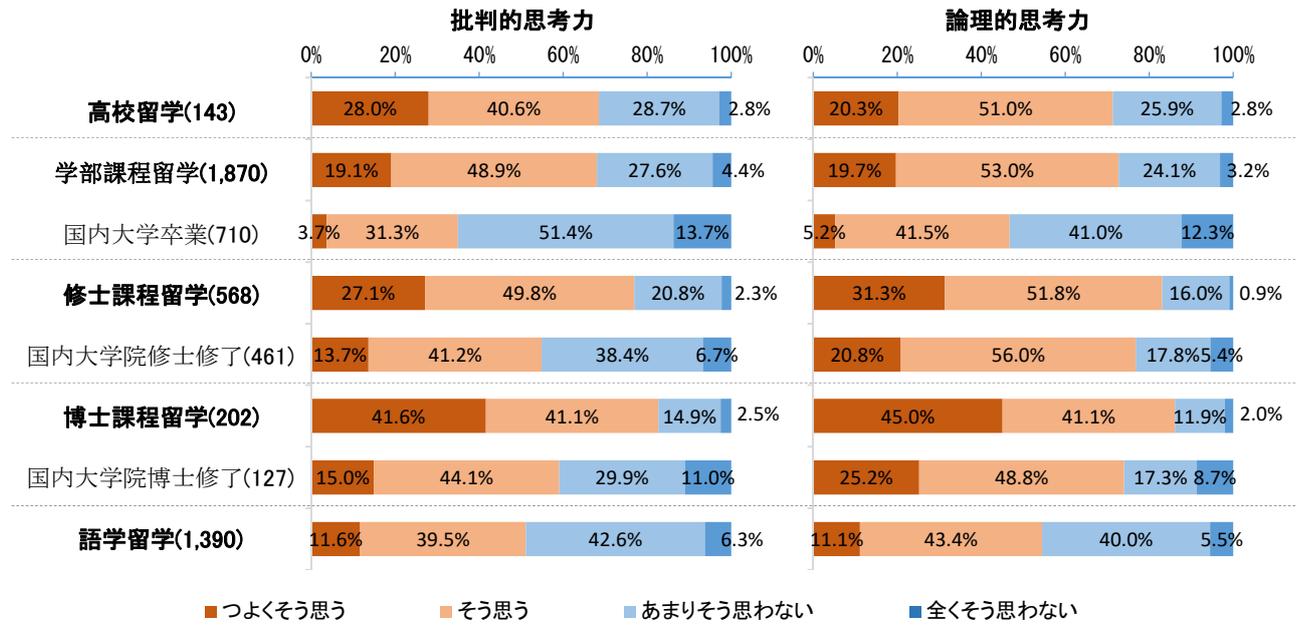
■ つよく思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

※【 】内は留学非経験者向けの質問項目

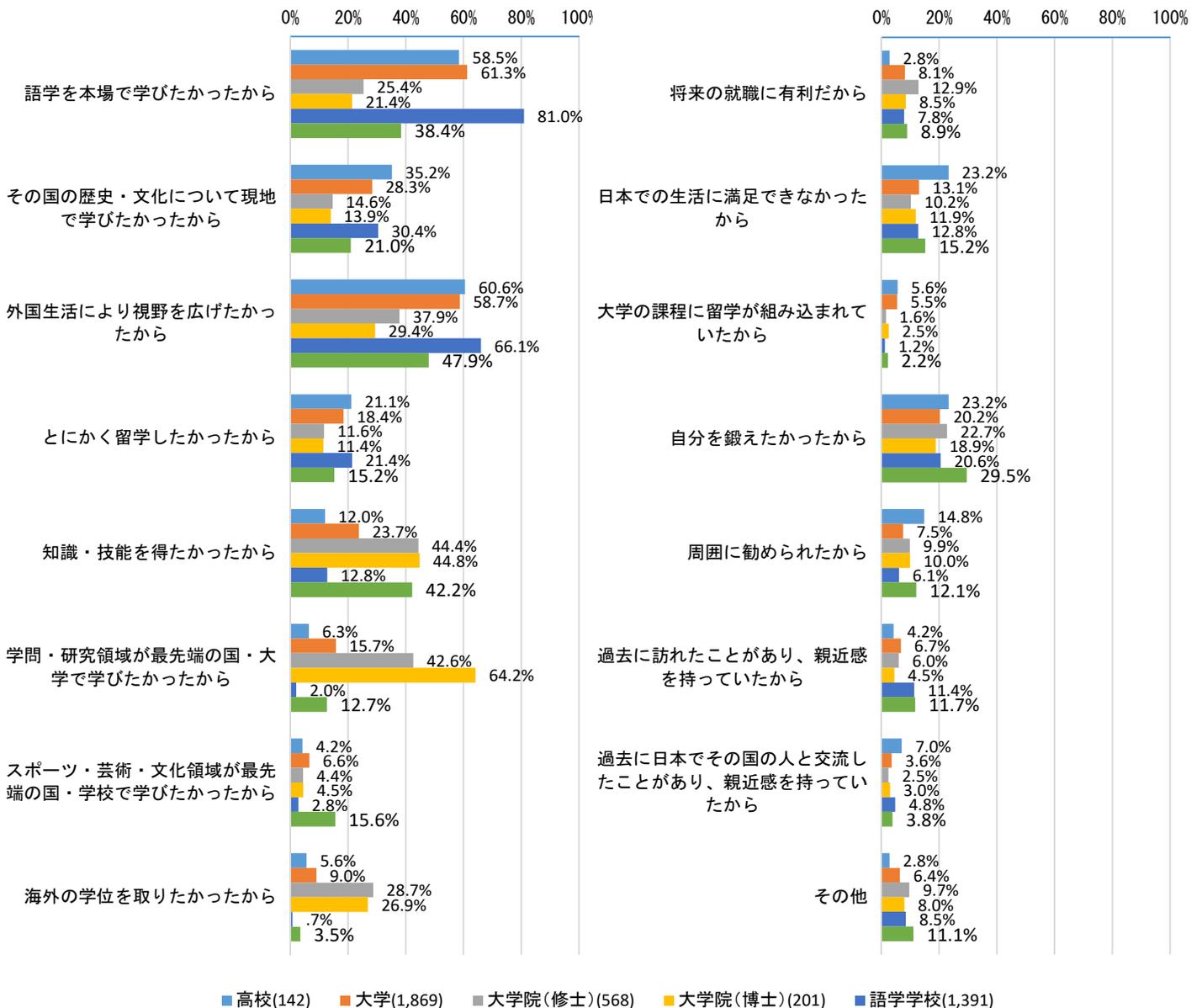
学校種別集計



学校種別集計



海外留学をした主な理由は何ですか？以下の中から、重要度の高い理由を最大3つまで選んでください。（留学経験者のみの質問）



3. 留学後の現在の年収と役職、外国語の使用

留学経験者と非経験者の中で年収には顕著な差

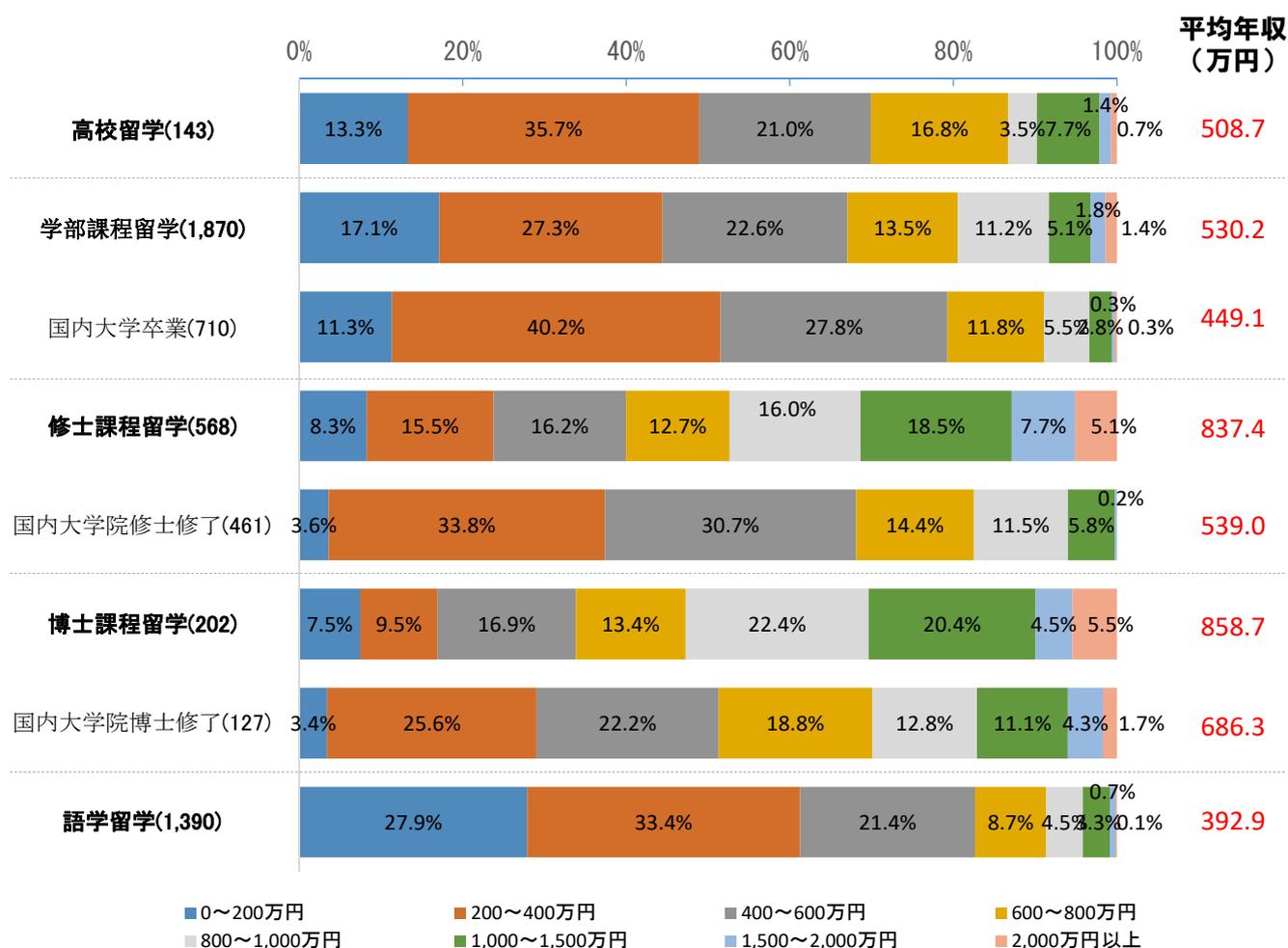
海外の大学への学部課程留学を経験した人は年収500万円を超えている。国内大学卒業者と比べても80万円近い差が生じている。

大学院への留学を経験した人であれば、年収800万円以上である。国内の大学院修了者と比較しても非常に大きな差がある。ただし、修士・博士修了者は、学士取得者に比べて年齢層が高いことに留意が必要である(属性情報の章参照)。

Q

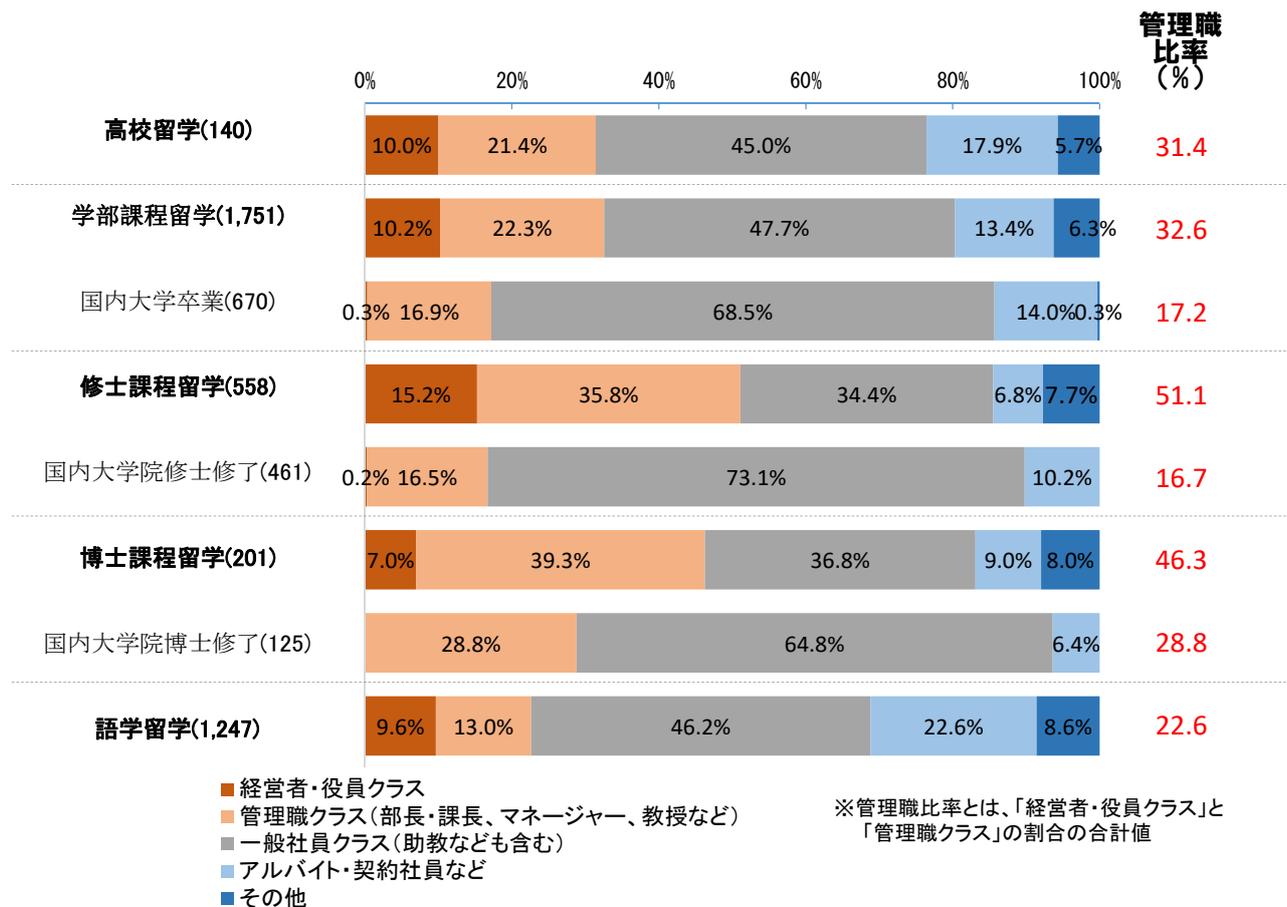
あなたの現在の年収をお答えください。

学校種別集計



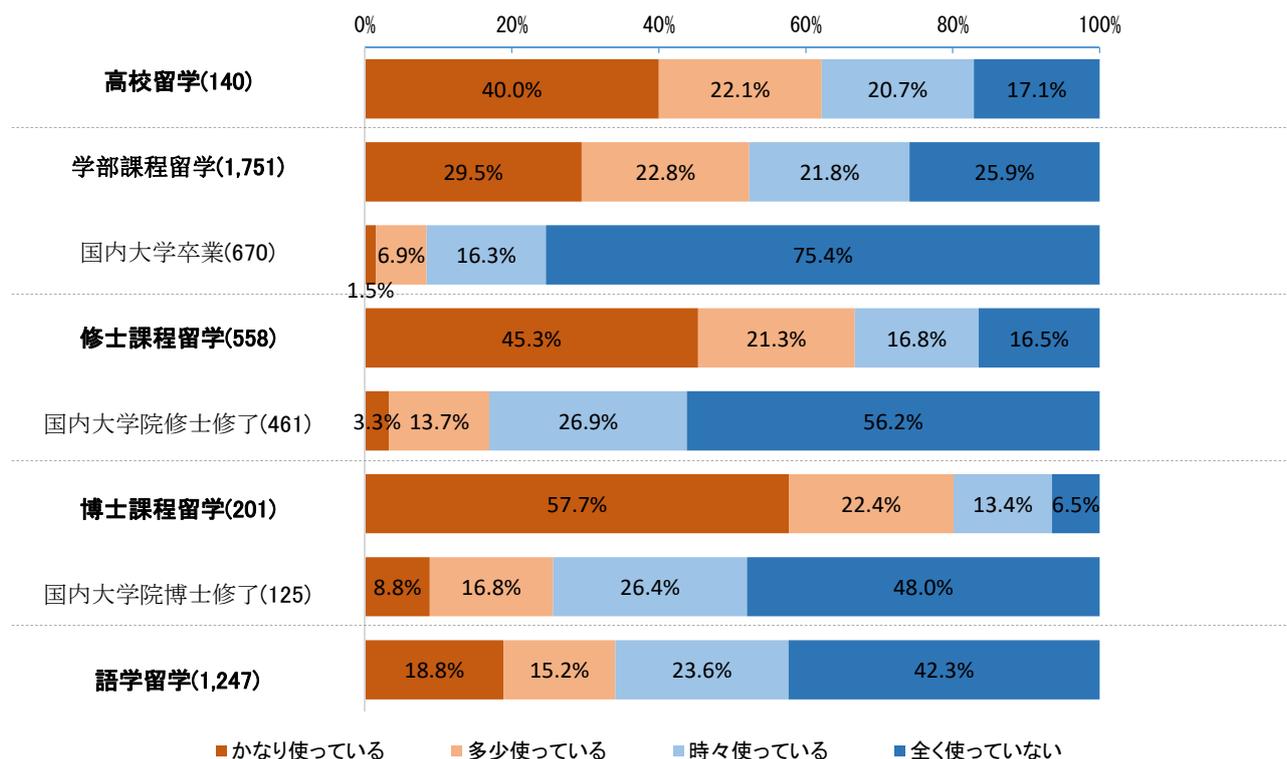


あなたの現在の役職をお答えください。



日本語以外で使える言語【最も得意とする外国語】について、現在の仕事でどの程度使っているかお答えください。

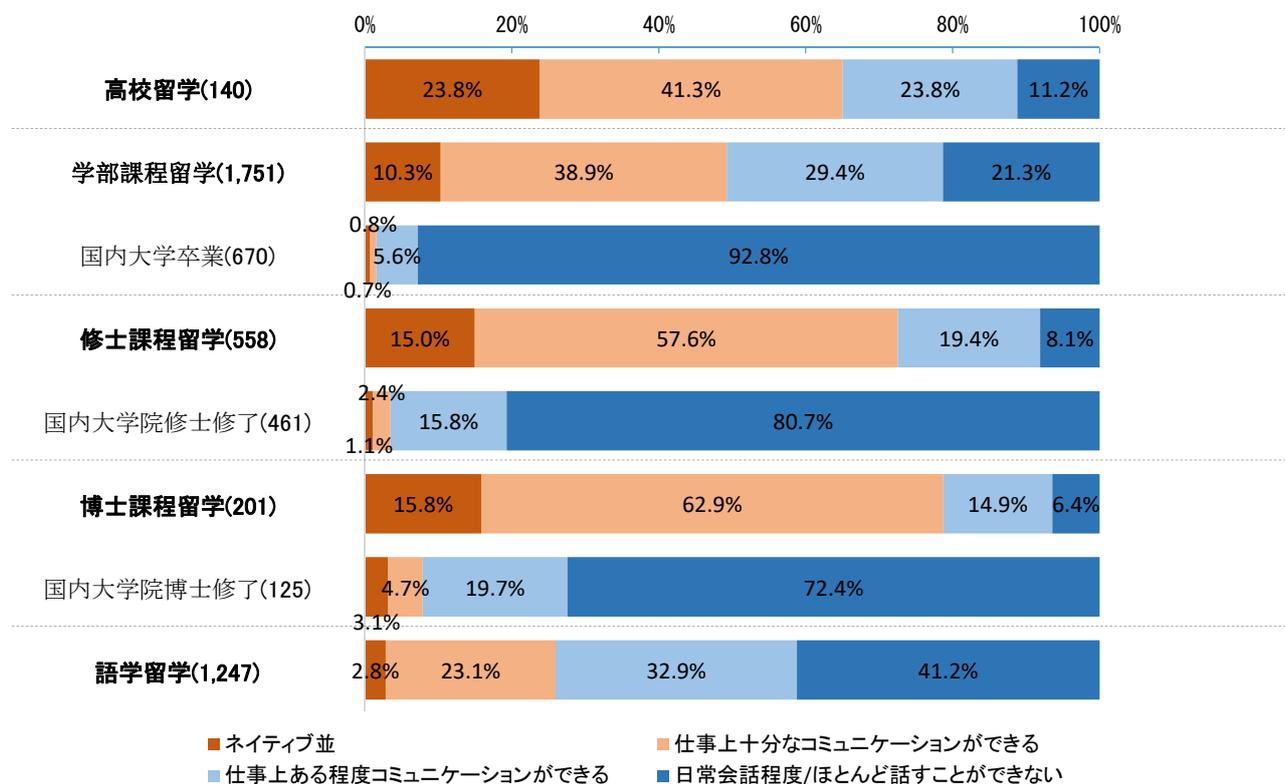
※【 】内は留学非経験者向けの質問





あなたが日本語以外で使える言語【最も得意とする外国語】の現在のレベルをお答えください。

※【 】内は留学非経験者向けの質問



4. 留学のキャリアへの影響

留学経験がキャリア設計の助けとなる

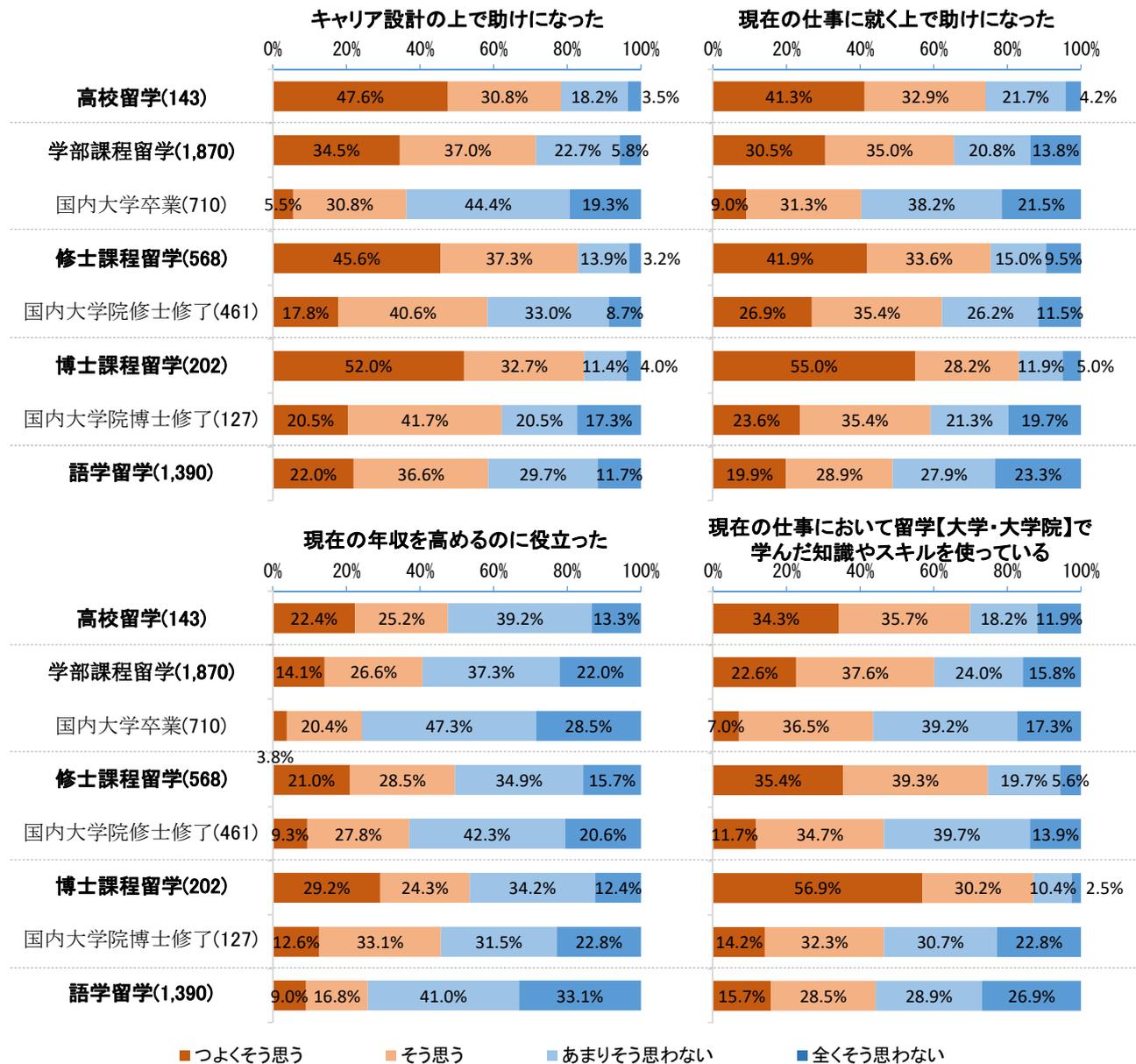
キャリアへの影響は全体値で比較すると大きな差はないが、大学・大学院に限ってみると大きな差がある。キャリア設計上の助けとなったという回答が学部課程留学でも7割、大学院留学であれば8割以上に達する。一方で、留学非経験者(特に、大学卒業者)の大学生活がキャリアに与える影響はそれほど小さくなく、留学経験がその後に大きなインパクトを与えていることが実感として現れている。留学で得た知識やスキルを仕事で活用している人も学部課程留学で6割以上であり、留学経験が仕事で活き、その後のキャリアアップを下支えしているといえる。



海外留学【大学・大学院での経験】が、あなたのキャリアにどの程度影響を与えたと思いますか。

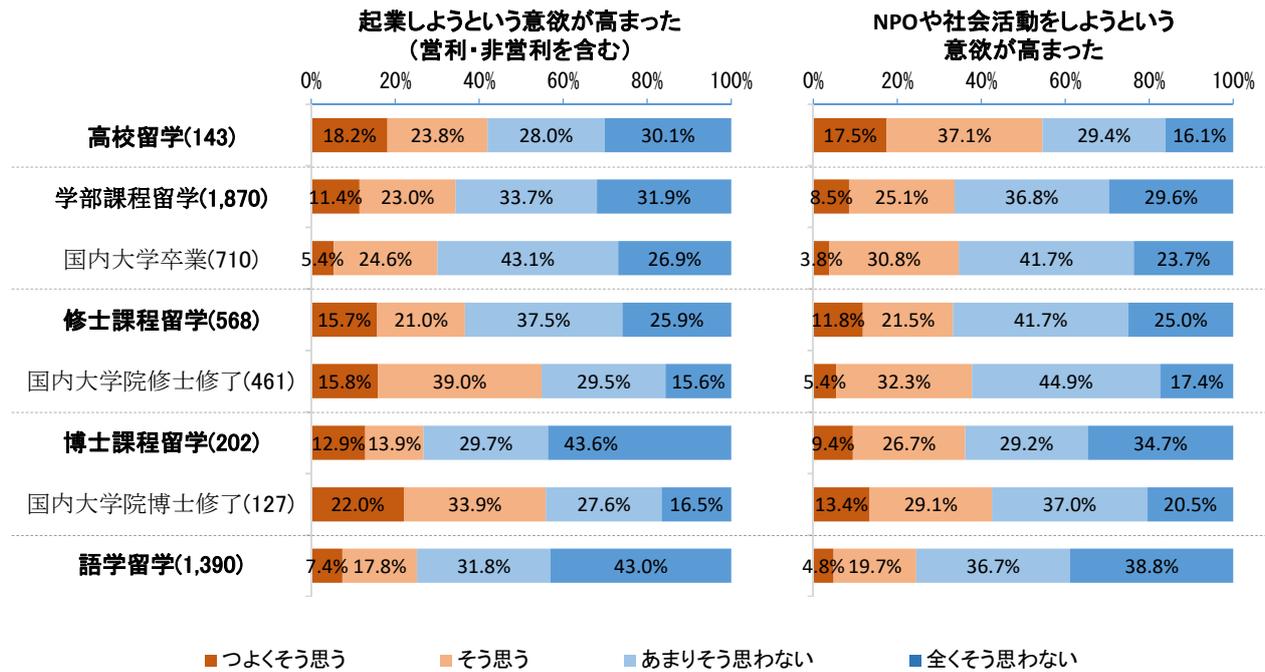
※【 】内は留学非経験者向けの質問

学校種別集計



※【 】内は留学非経験者向けの質問項目

学校種別集計



(参考) 企業における海外経験者とグローバル人材の雇用状況に関する調査結果 (従業員規模別)

調査時期 2014年3月17日～2014年6月27日

調査対象 (株)ディスコ社の顧客企業約9,000社の人事担当者

回収社数 423社

Q 貴社の業務において、語学力(日本語以外)は、どの程度重要ですか。

(%)

	全体	～299人	300～999人	1000人以上
かなり重要である	8.9	7.3	10.8	9.2
やや重要である	33.7	37.5	27.7	35.5
どちらとも言えない	20.0	21.4	17.6	21.1
あまり重要ではない	19.2	15.6	21.6	23.7
ほとんど重要ではない	18.3	18.2	22.3	10.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

(参考) 企業における海外経験者とグローバル人材の雇用状況に関する調査結果 (従業員規模別)

Q 貴社の採用活動において、「海外経験があること」は、どの程度重要ですか。

(%)

	全体	～299人	300～999人	1000人以上
かなり重要である	4.5	4.6	4.7	3.9
やや重要である	23.2	23.2	23.5	22.4
どちらとも言えない	28.9	27.3	27.5	35.5
あまり重要ではない	18.9	18.6	17.4	22.4
ほとんど重要ではない	24.6	26.3	26.8	15.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

Q 貴社において、「留学経験」は(種類によらず)どの程度の期間であれば評価しますか。

(%)

	全体	～299人	300～999人	1000人以上
1年以上	37.9	38.5	36.3	39.5
6ヶ月以上	18.1	16.7	18.5	21.1
3ヶ月以上	3.6	2.1	4.8	5.3
1ヶ月以上	3.1	2.6	3.4	3.9
1ヶ月未満でも評価する	5.1	5.7	5.5	2.6
評価しない	32.1	34.4	31.5	27.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

5. 留学の採用への影響

留学経験そのものが評価されたのは全体として60%程度

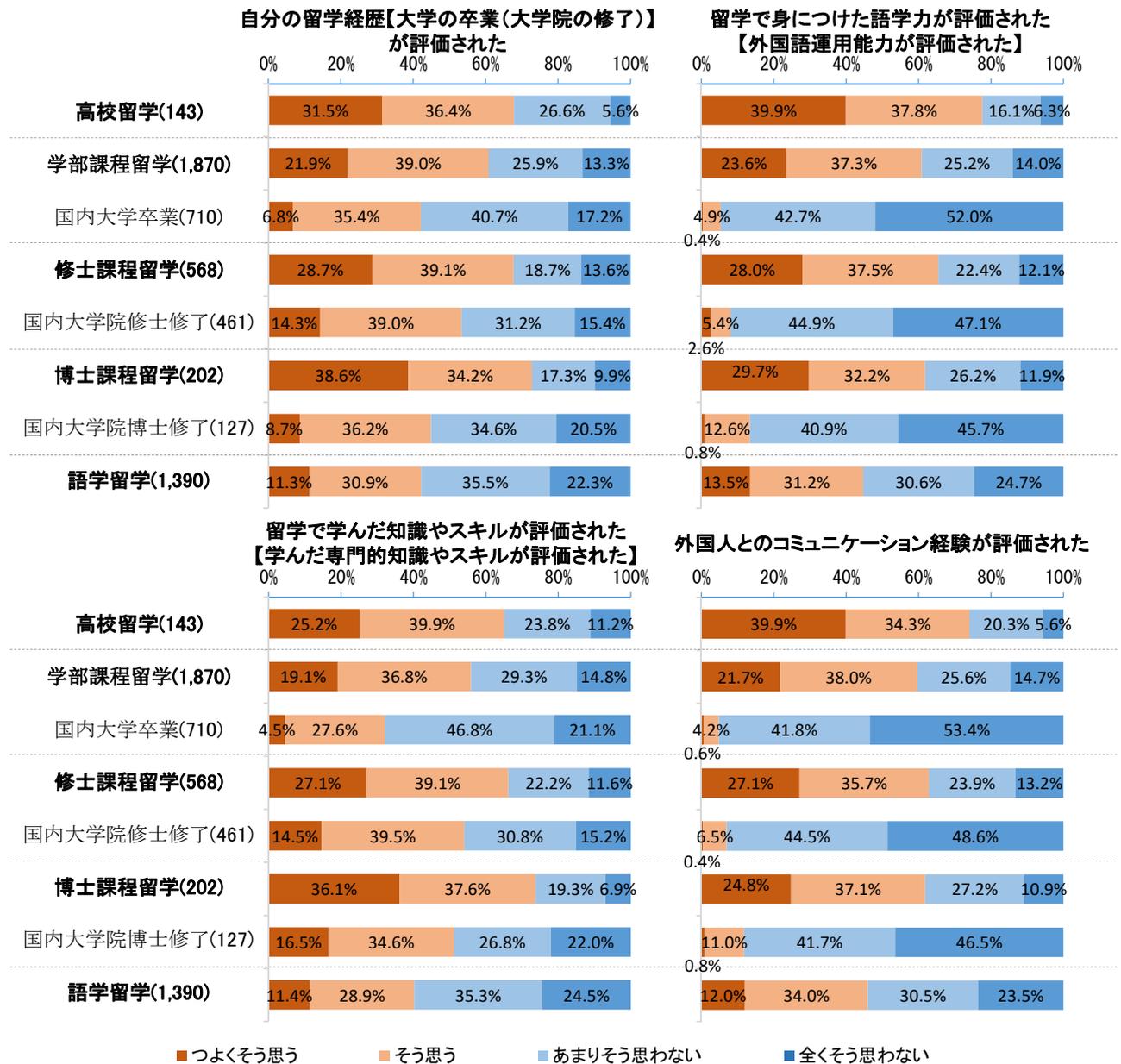
前ページでみたように留学がキャリアの助けになっている割合は高いが、採用時において留学が評価されたと感じているのは、学部課程留学・修士課程留学・博士課程留学のどれでも60%程度である。国内の大学・大学院の卒業(修了)が評価された割合よりは高いが、留学そのものや語学力に対する評価よりも、留学経験が資質や意欲・態度に表出して、評価されたと捉えることができる。



海外留学【大学・大学院での】経験に関することが、採用の際にどの程度評価されたと思いますか。

※【 】内は留学非経験者向けの質問

学校種別集計



※【 】内は留学非経験者向けの質問項目

6. 留学による意識の形成

留学を経験することで、前向きな意識の形成につながる

リスクを恐れず新しいことにチャレンジする気持ち、多様な価値観の人々を受け入れる姿勢などが形成される。

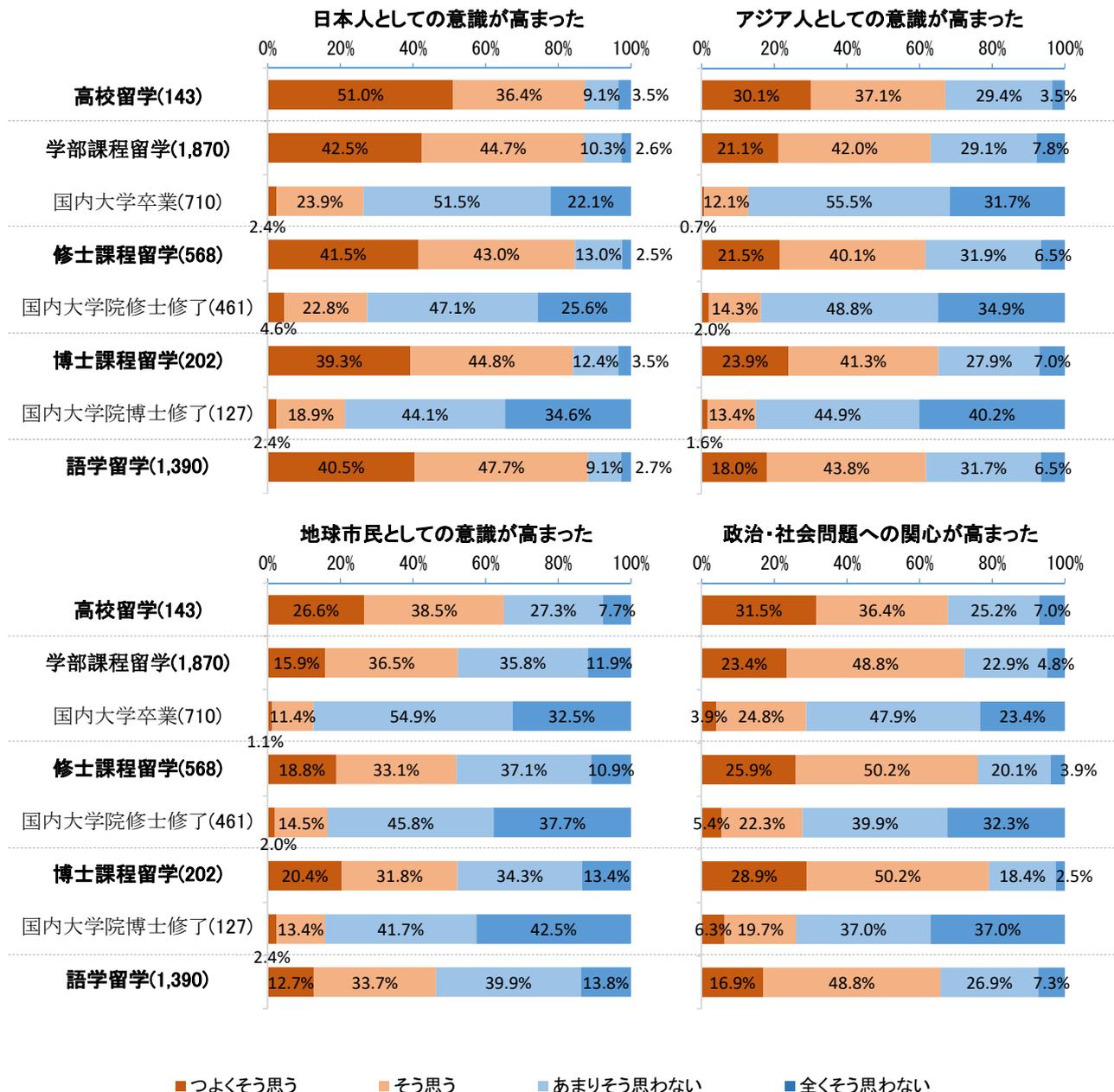
グローバル社会において重要な「アジア人・地球市民意識」については留学経験者と留学非経験者では顕著な差がみられる。多様な価値観・文化的背景を持つ人々の交流にも積極的であり、自己肯定感・自己効力感・自己有用感の向上にも貢献している。

Q

海外留学の結果【大学・(大学院)卒業(修了)の結果】、次のような意識がどの程度高まったと思いますか。

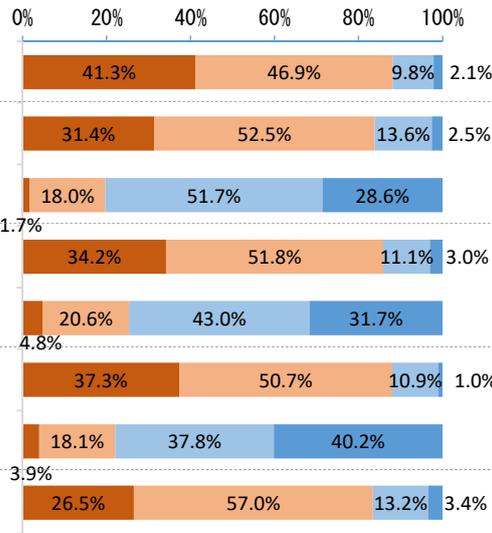
※【 】内は留学非経験者向けの質問

学校種別集計

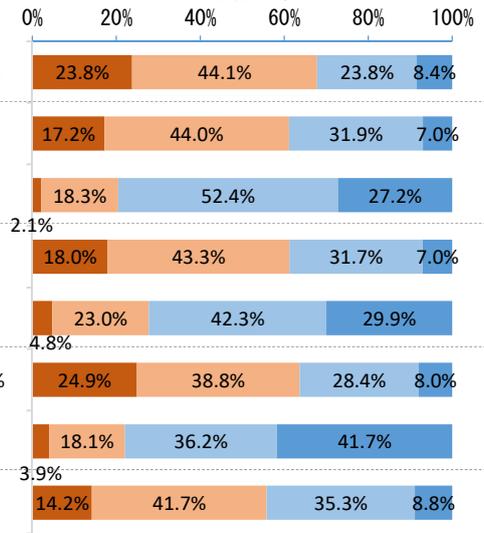


学校種別集計

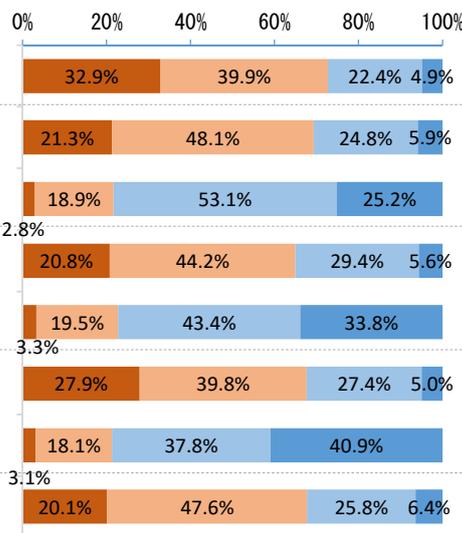
外交・国際関係への興味が高まった



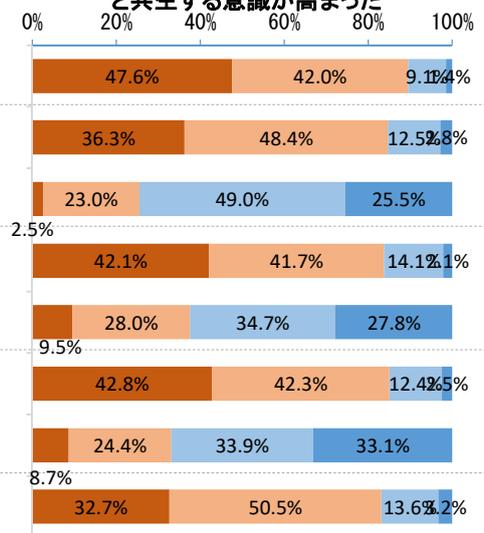
環境・貧困問題等の地球的課題 に対する意識が高まった



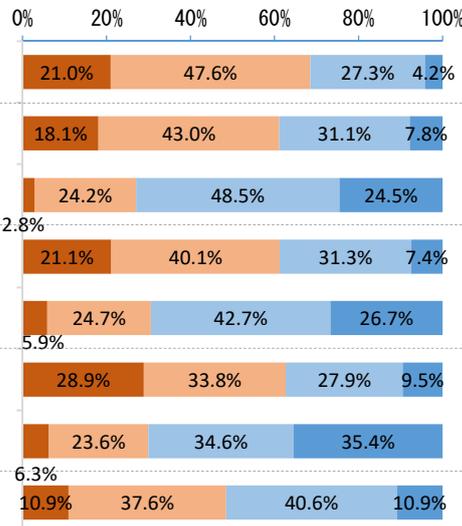
平和に対する意識が高まった



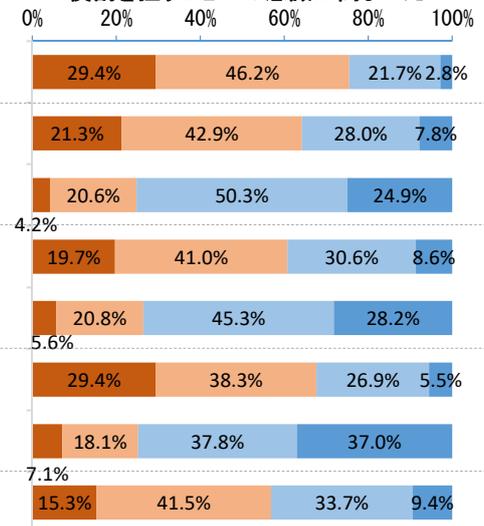
多様な価値観や文化的背景を持つ人々 (例:性的マイノリティ、在日外国人など) と共生する意識が高まった



社会での男女共同参画の意識が高まった

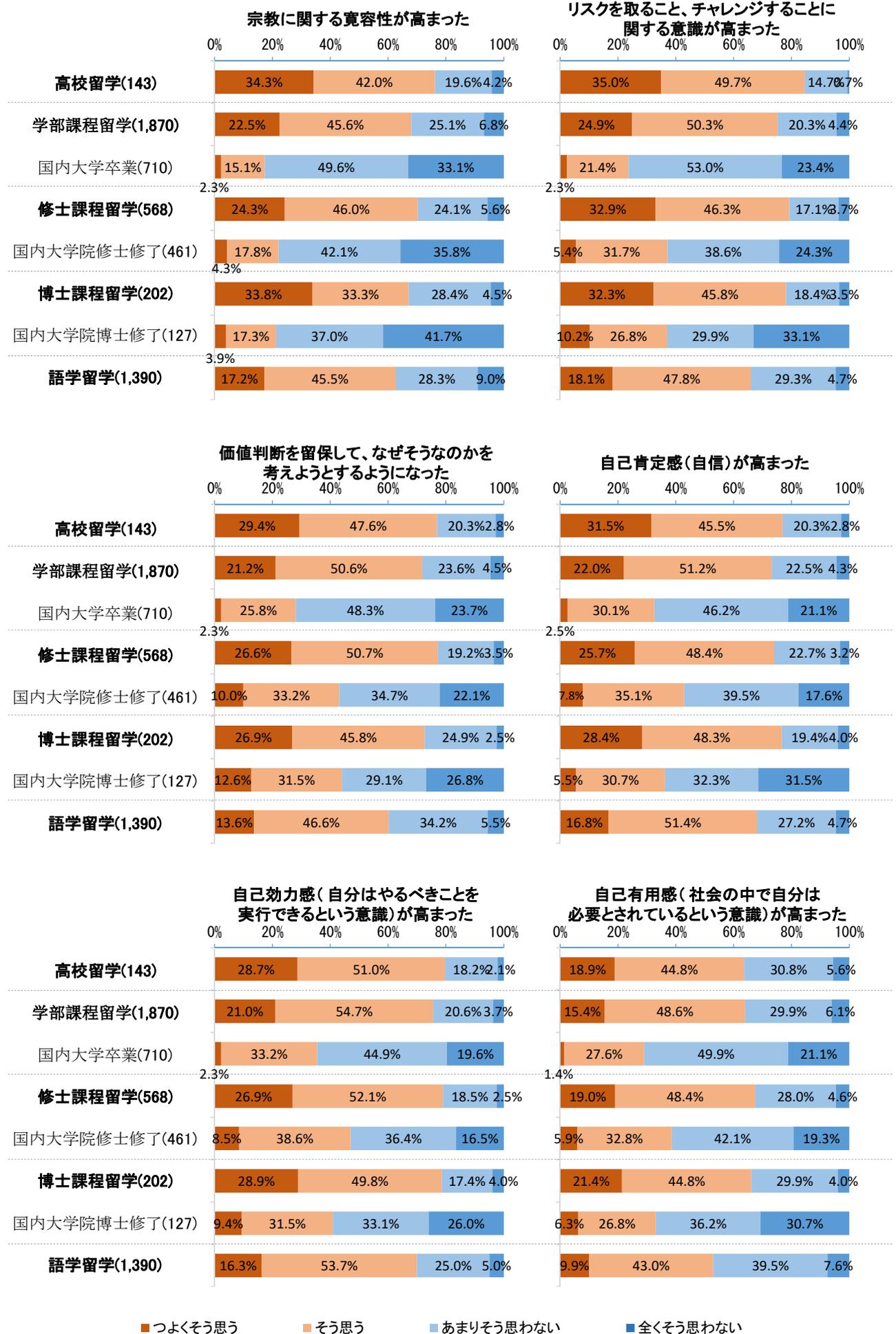


性別に捉われず家庭内における 役割を担うことへの意識が高まった



■ つよくそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

学校種別集計



7. 留学による行動の変化

高校への留学経験者は社会貢献活動に積極的

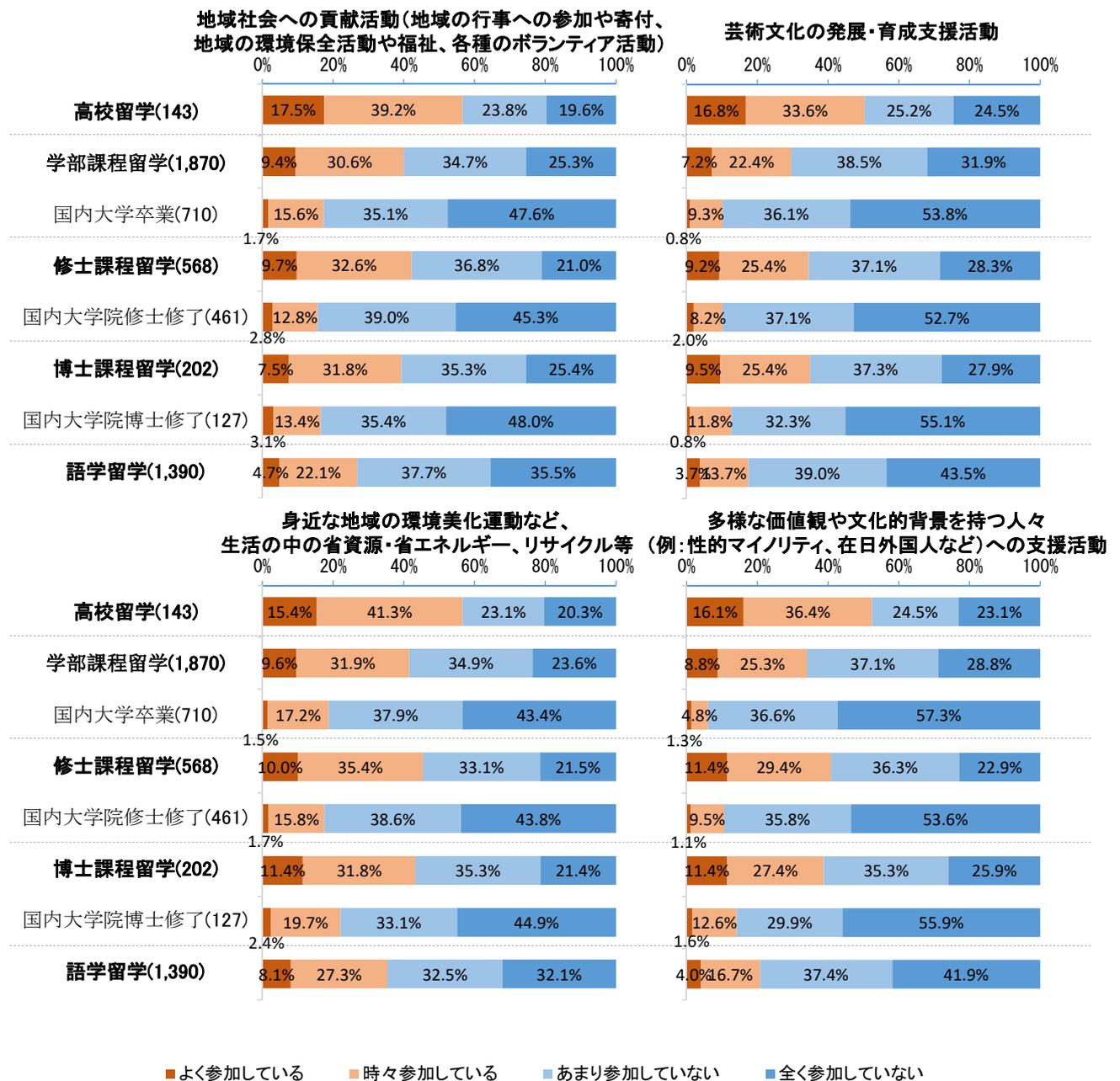
高校留学をした人は、地域活動や交流活動に非常に積極的であることがわかる。高校留学では、比較的長期のホームステイを経験した人が多く、ホストファミリーや地域の人たちとの継続的な交流の機会を持つことが多い。その経験が留学後の意識や行動に現れているのであろう。



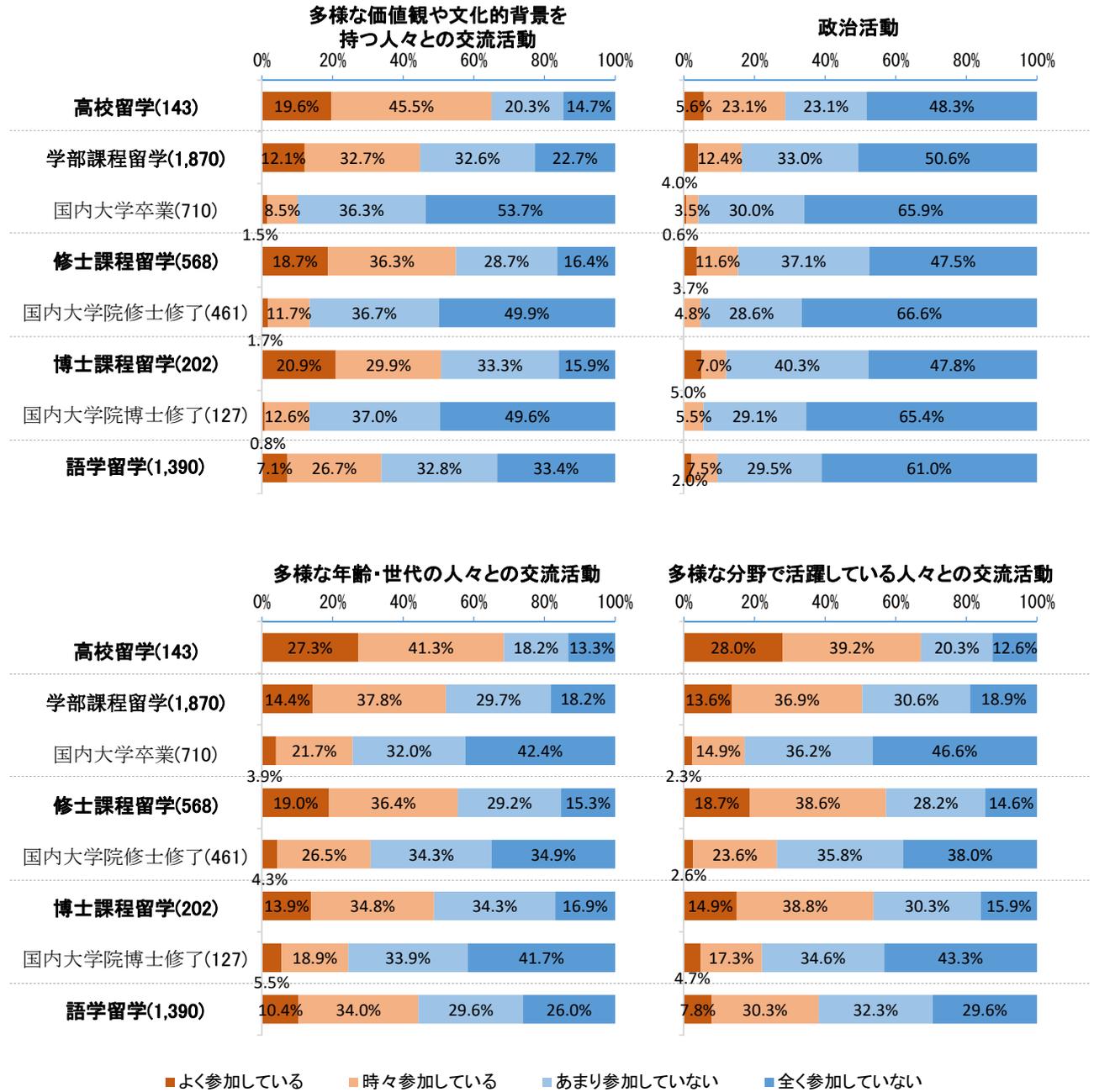
海外留学【大学・大学院の卒業(修了)】の結果、次のような行動への関わりがどの程度多くなったと思いますか。

※【 】内は留学非経験者向けの質問

学校種別集計



学校種別集計



8. 留学による価値観・態度の変化

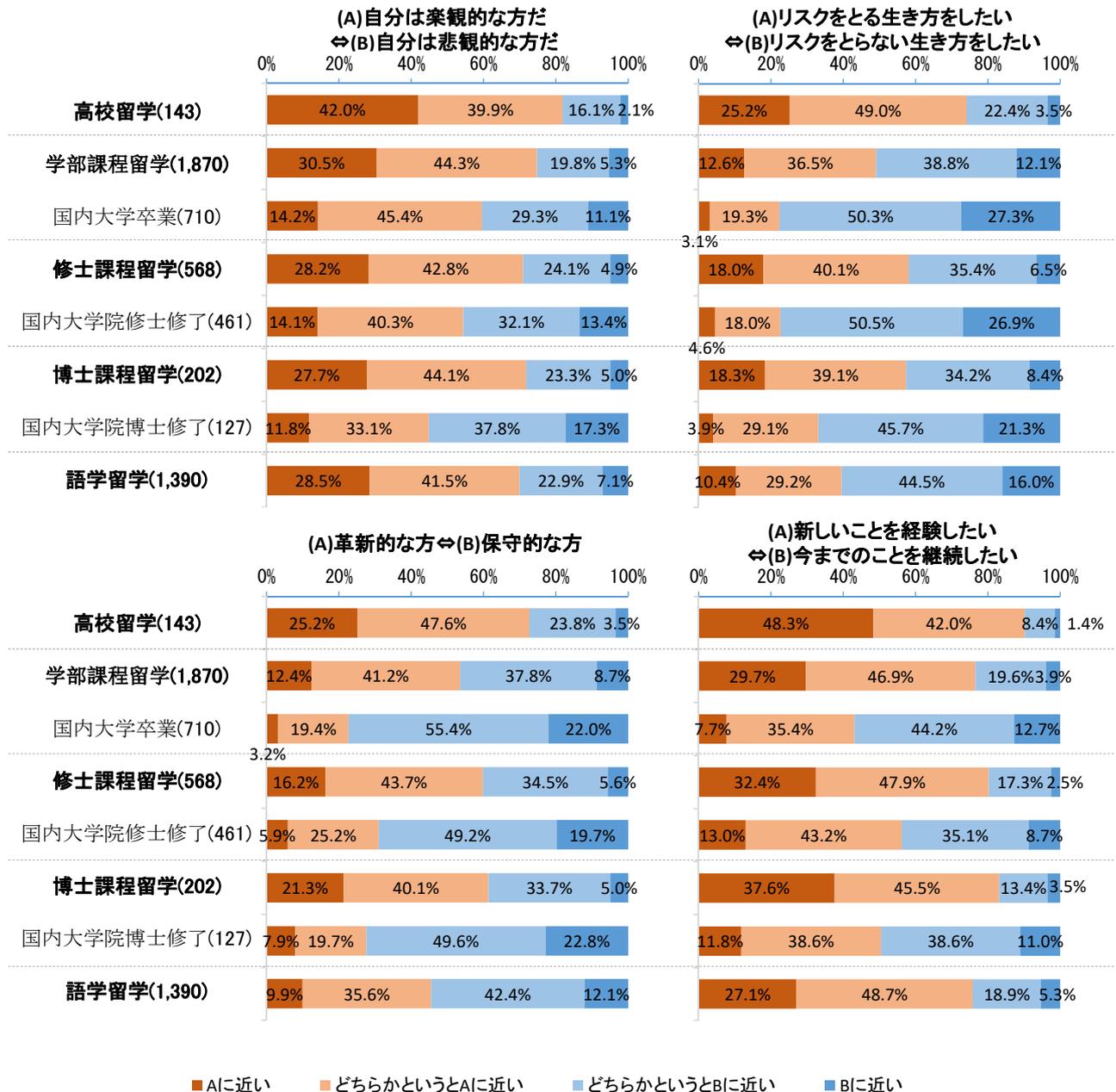
留学経験者は人生においてもリスクを取り、挑戦する人が多い

留学そのものが大きな挑戦であり、投資であるが、その後の人生においてもリスクを取って、新しいことにチャレンジする精神を持った人が多い。特に高校留学を経験した人は、新規性を求め転職も厭わない傾向が強いといえる。

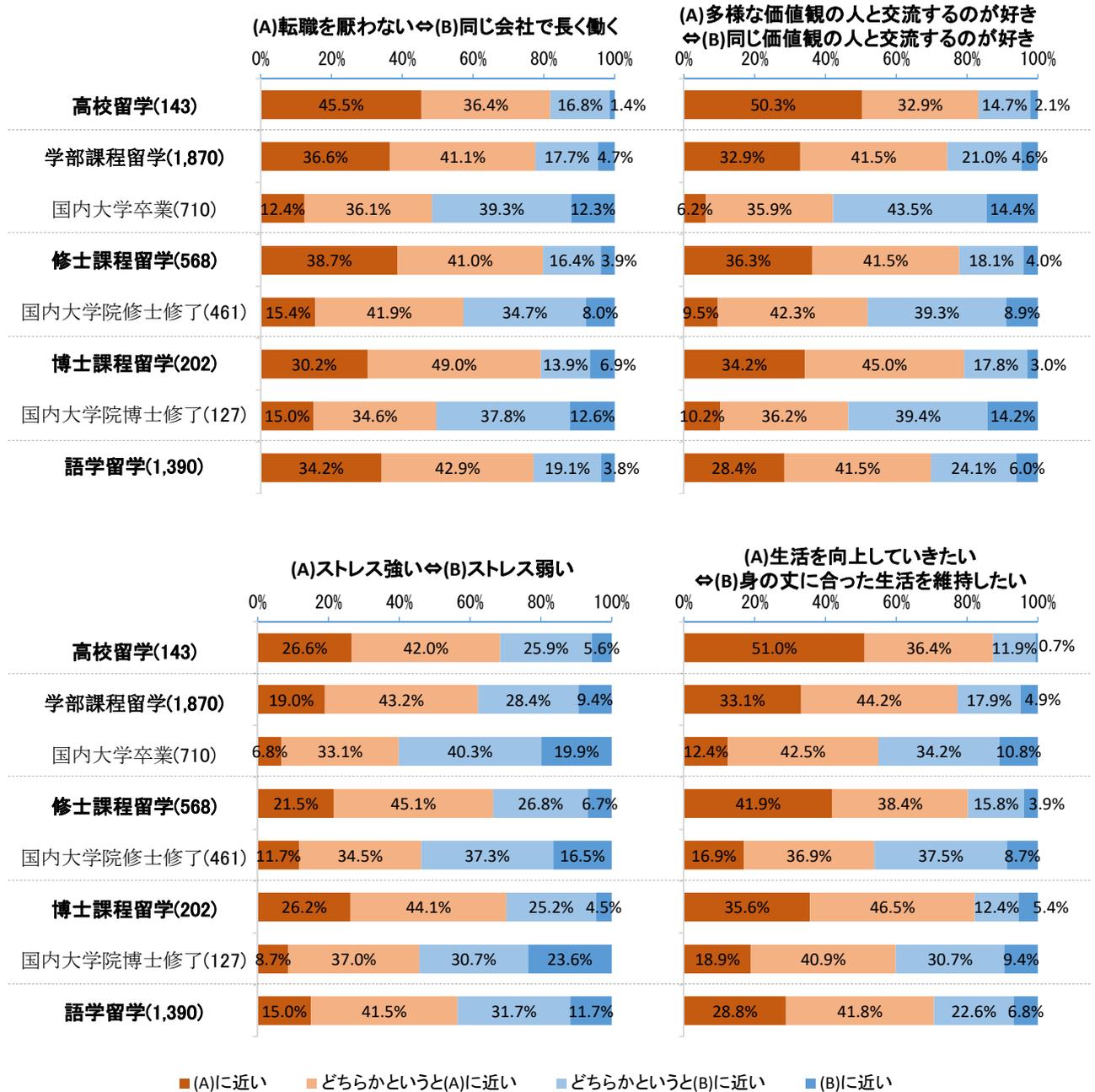
Q

あなたの態度や価値観についてお伺いします。以下のそれぞれの項目について、当てはまるものを一つ選んで下さい。

学校種別集計



学校種別集計



9. 人生や仕事の満足度

仕事の満足度は経験者と非経験者では差がない

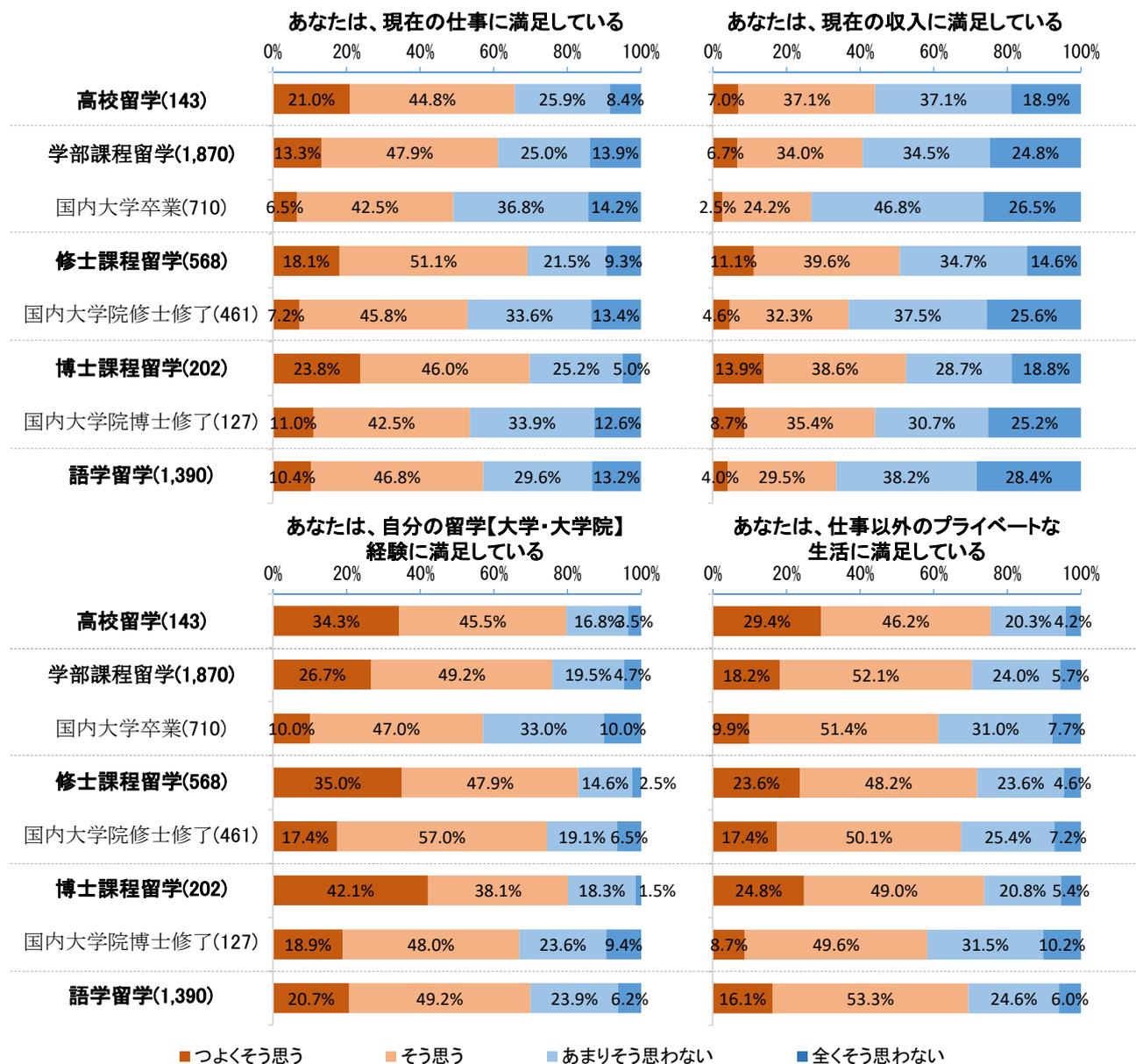
留学経験者と留学非経験者でその後のキャリアに差があっても、仕事や年収に対する満足度には有意な差が見られなかった。学部課程留学と大学院留学の間でも差がない。

しかし、留学経験者の方が留学非経験者よりも人生の満足度は高かった。留学経験が多様な価値観の人々との交流や交友、社会問題への興味・関心などを促し、人生の質的な向上をもたらしたと推測できるのではないか。

Q

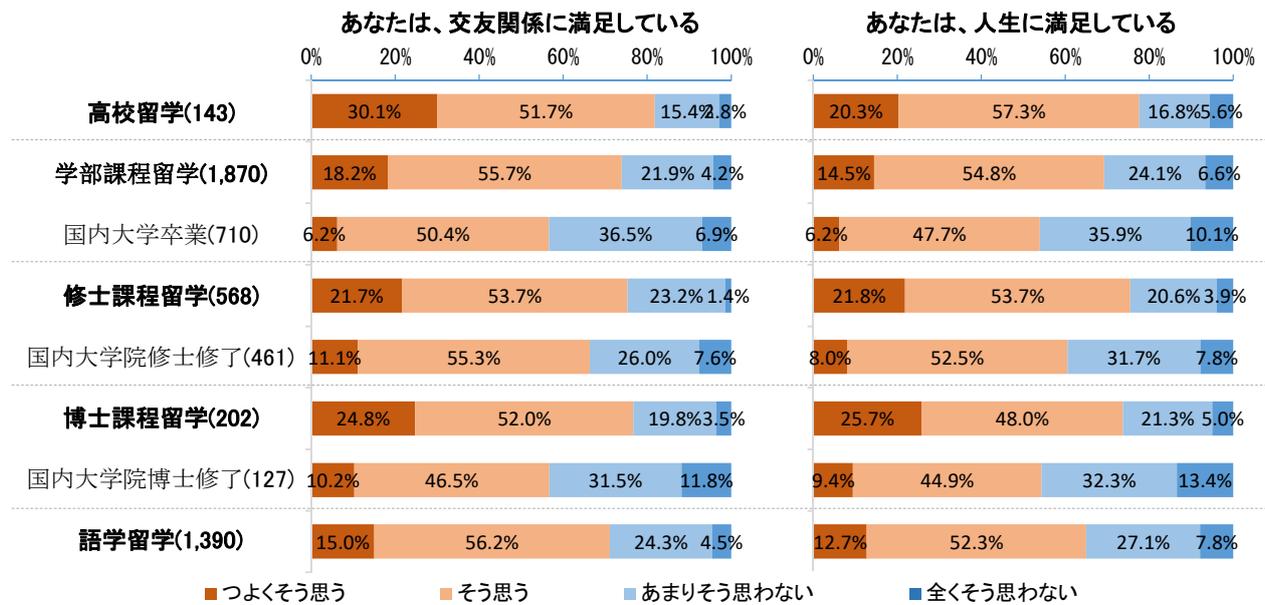
あなたは、以下のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。

学校種別集計



※【 】内は留学非経験者向けの質問項目

学校種別集計



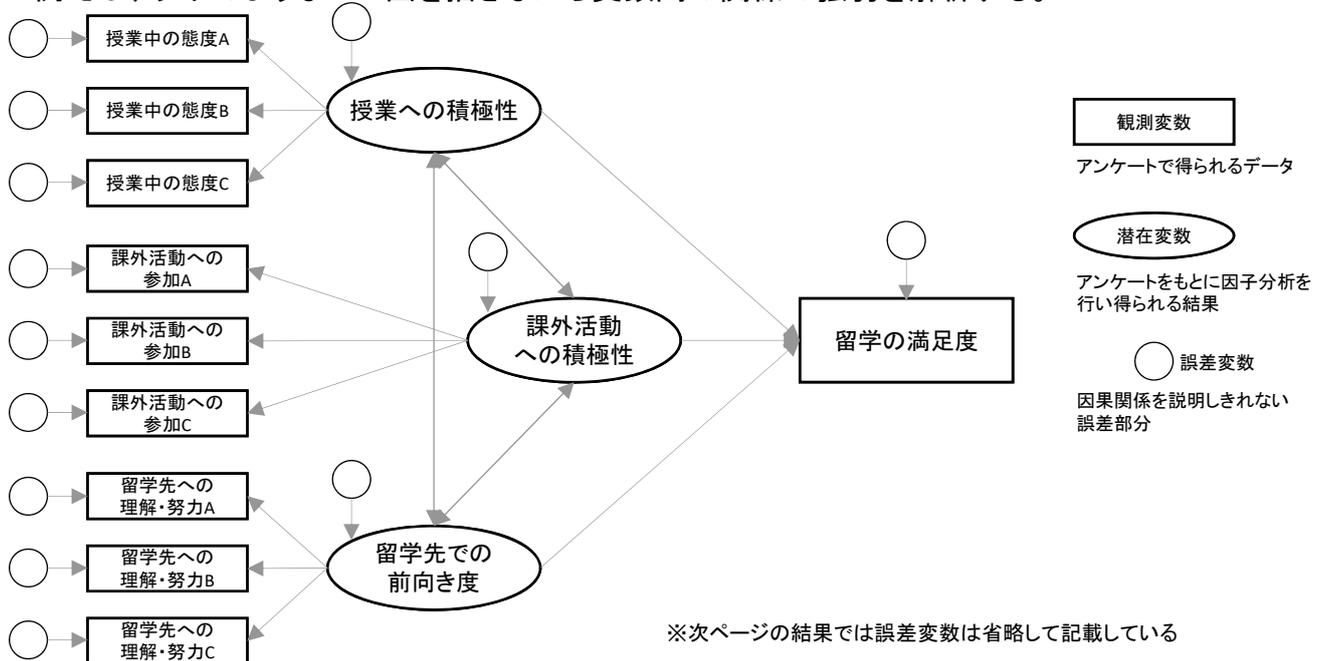
トピック: 共分散構造分析の結果

● 共分散構造分析について

アンケートで得られた観測変数と観測変数に内在する潜在変数を用いて、人生や仕事、留学経験に対する「満足度」はどのような要因で成り立っているのかを構造的に解析する手法である。

「Aの原因としてBとCの2つがある。BはさらにDとEに影響し、CはFとGに影響する。」など複雑な要因を持ったロジックを仮説検証の方法で明らかにしていく。

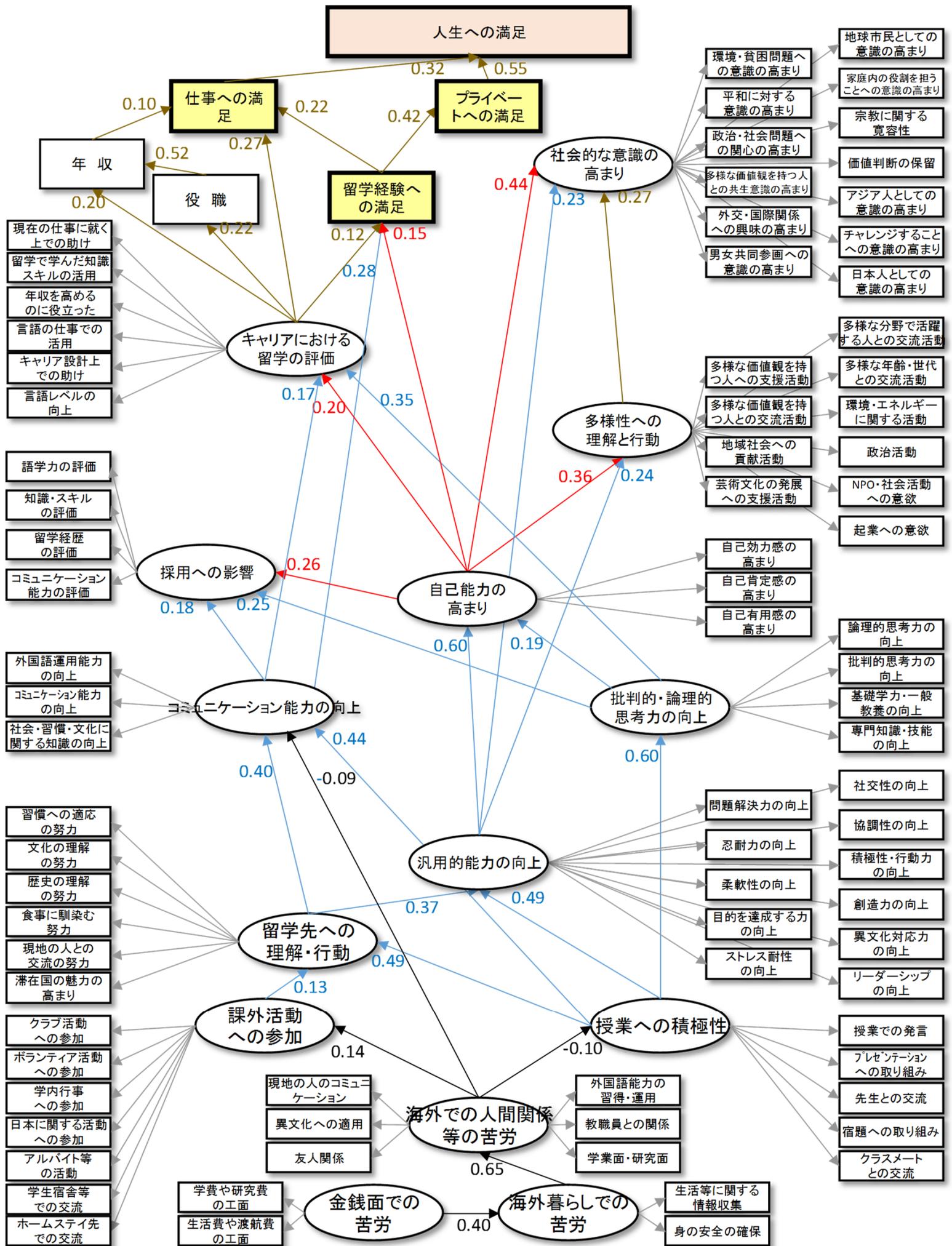
例えば、以下のようなパス図を描きながら変数間の関係の強弱を解析する。

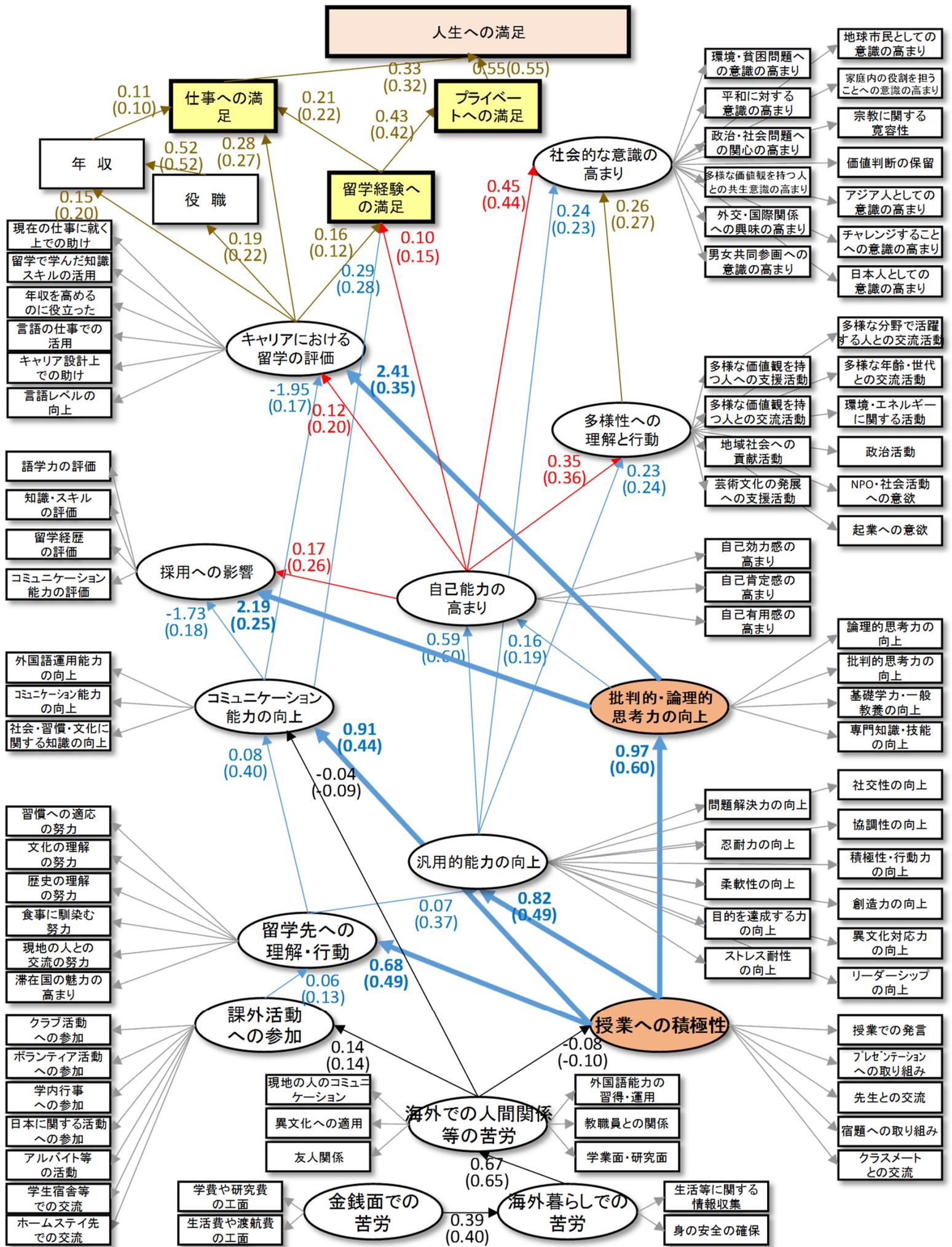


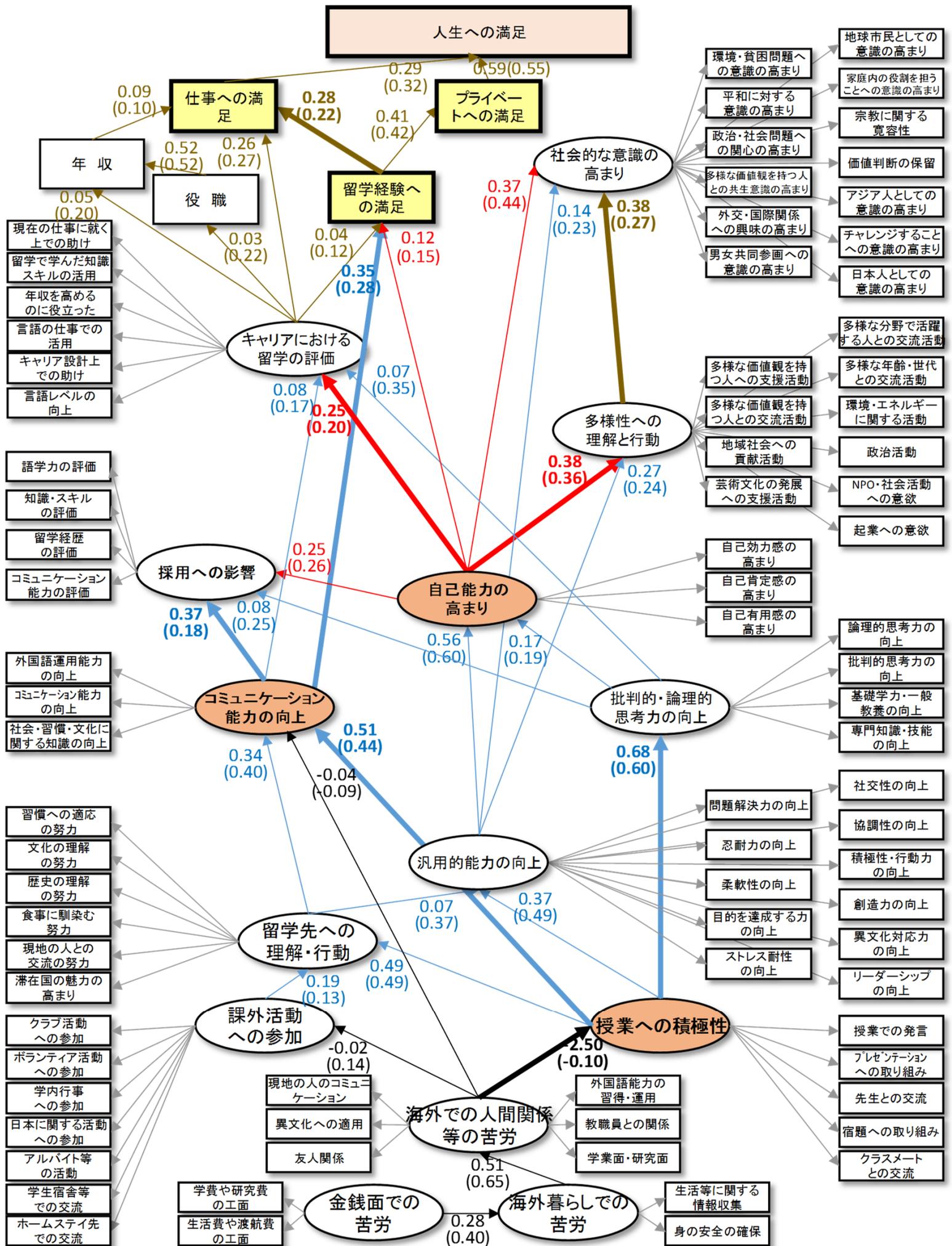
● 分析結果について

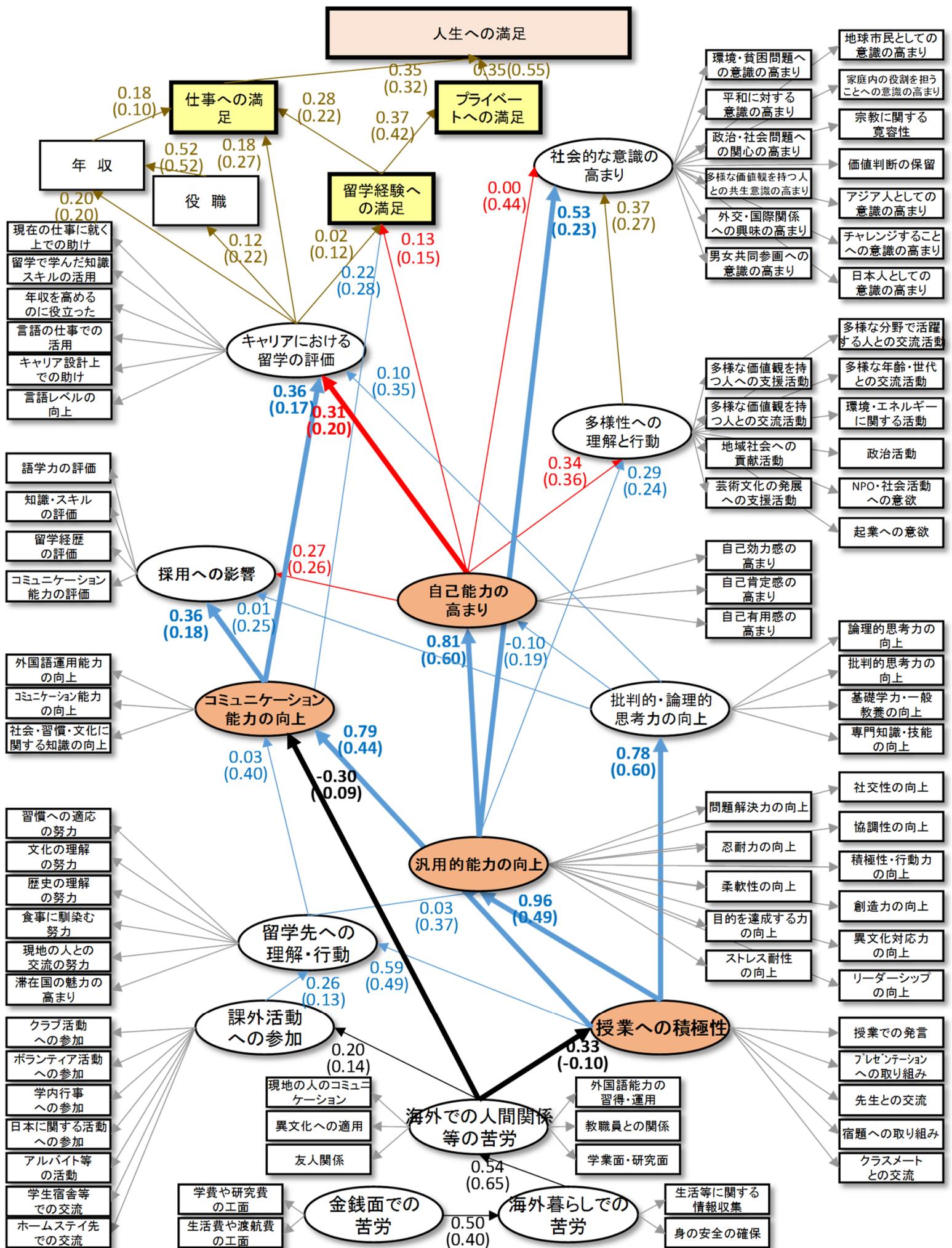
全体での分析を見てみると、授業への積極性が留学先への理解・行動、および能力の向上に大きく寄与していることがわかる。能力の向上がキャリア形成のほかに、多様性への理解と行動、さらには社会的意識の高まりにもつながっている。そして、留学経験や仕事、そして人生への満足度につながっている。

これを学部課程留学だけで見てみると、授業への積極性⇒批判的・論理的能力の向上⇒キャリア形成に関して強い関係性が見え、修士課程留学(学位取得のみ)で見ると、さらにコミュニケーション能力の向上⇒キャリア形成の関係性が加わり、博士課程留学(学位取得のみ)では、さらに汎用的能力の向上⇒キャリア形成の関係性が加わることがわかる。段階が上がるにつれ、能力向上とキャリア形成の関係性が明確になっていくといえる。









【プロジェクトメンバー】

横田 雅弘	明治大学 国際日本学部	芦沢 真五	東洋大学 国際地域学部
太田 浩	一橋大学 国際教育センター	新田 功	明治大学 政治経済学部
米澤 彰純	名古屋大学 国際開発研究科	黒田 一雄	早稲田大学 国際学術院
北村 友人	東京大学 大学院教育学研究科	小林 明	明治大学 国際日本学部
秋庭 裕子	一橋大学 商学研究科	渡部 由紀	一橋大学 商学研究科
新見 有紀子	一橋大学 法学研究科	近藤 祐一	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部
堀江 未来	立命館大学 国際教育推進機構		

【調査協力機関】

河村 基	(株)エールバリュー	早川 楽	アンザスインターナショナル(株)
大村 貴康	(一社)日本国際化推進協会(JAPI)	辰野 まどか	(一社)グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)

本調査は、科研プロジェクト終了後も、一般社団法人「持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム」(<http://recsie.or.jp/>)が引き継ぎ、以下の二つのサイトでその成果を活用していきます。

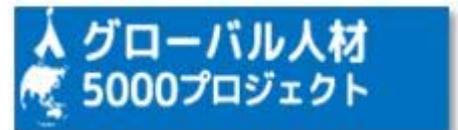
グローバル人材5000プロジェクトについて

このプロジェクトでは日本の留学交流を活性化させ、若い世代の留学を支援し、グローバル人材育成に寄与することを目的として、世代を超えて留学の価値を普遍的に共有し、若い世代が留学することを支援するためのオンライン・コミュニティの構築を目指します。

Global JINZAI 5000 Project

Disseminating the Impact of Study Abroad

Retrospective Research on 5000 Study Abroad Participants



グローバル人材5000プロジェクトウェブサイト
お問い合わせメールアドレス

<http://gj5000.jp/>
kaken@gj5000.jp

留学のすすめ.jpについて



「留学のすすめ.jp」は、留学経験者のプロフィール、インタビュー記事などを掲載するほか、留学を志望する若い世代が留学経験者に質問したり、助言を得られるようなコミュニケーション機能をもったオンライン・コミュニティです。現在、明治大学、東洋大学、一橋大学、東北大学などが協力大学となり、授業に取り入れられています。留学経験者は、主に「次世代の学生支援」「留学経験者同士の交流」の目的で本サイトを活用することができます。学生は、「留学経験者の取材記事を読む」「キャリアや留学経験から興味のある先輩を探す」「悩みを質問」「インタビューの申込」を行うことができます。

「留学のすすめ」ウェブサイト

<http://ryugaku-susume.jp/>

本調査へのお問い合わせ

明治大学 国際日本学部 横田研究室

TEL / FAX : 03-5343-8262

Email : yokotam@meiji.ac.jp

グローバル人材5000プロジェクト <http://gj5000.jp/>

本調査の結果は上記ウェブサイトにも掲載し、成果を公表します。